

～新たな時代の幕開け～

1999年
第35回

総会開催

総明会会報

発行

明治中学・高等学校同窓会
〒101-0064 千代田区猿樂町2-4-1
明治大学付属明治高等学校内
TEL (03) 3296-4555

発行人／専務理事 尾島育四郎
編集／四七四七同志酔会



リパティタワー23階より撮影

二〇〇〇年に向けてカウントダウンに入る中、世紀の大きな節目に第三十五回総明会総会及び懇親会が来る十一月二十日(土) 帝国ホテルに於いて開催されます。
千載一遇ともいふべきこの宴のホスト役を四七四七同志酔会(昭四十七年卒同期会)が一所懸命務めさせていただきますので、ご本人様は勿論、ご家族、ご友人の方をお誘いの上、是非ともご来臨を賜りますようお願い申し上げます。

第35回総明会総会

式次第

- 一 開会の辞
- 二 会長挨拶
- 三 議長・書記選出
- 四 議事

- 議案第一号 会計報告
- 議案第二号 監査報告
- 議案第三号 役員選出
- 議案第四号 基金設立
- 議案第五号 基金報告
- 議案第六号 基金報告

五 閉会の辞

御出席予定の来賓の方々

明治大学

理事長 岡村 了一様
学 長 栗田 健様
学 長 戸沢 充則様

明治中・高校

校長 清水 紀夫様
高校教頭 小田島利晴様
中学教頭 川瀬 孟俊様
教 諭 尾崎義夫様
安部友己様 鈴木康己様
坂口泰通様 山口 弘様
北村 純様 佐藤秀加様
吉川末恒様 藤田昭造様
桜井正美様 栗野哲也様
田中徹太郎様 土岐明利様
由井将雄様 山田伸夫様
駒形くみ子様 清水克悦様
横山晴之様 則 茂雄様
元谷 恒様 笹倉康夫様
小西哲男様 前島研二様
小柴仁美様 谷 伸彦様
山中慎一郎様 鈴木正人様
須藤正見様 大野正隆様
下野 進様 星野 均様
岸 哲利様 吉田重幸様
並木 啓様 篠島正子様
矢田理世様

中野高校校友会

武陵会

会 長 高橋 晴樹様
副会長 小堤 次男様
専務理事 松尾 秀一様
常務理事 井上 勝弘様
津田 敏男様

恩 師

雨宮芳久様 釜屋正誠様
栗原圭介様 後藤朋智様
境田啓一様 樋山正士様
松本理三郎様 水落八郎様
村野圭吾様 山脇信彦様

白駿会

会 長 山浦 晟暉様

P.T.A役員

会 長 千崎 忠昭様
副会長 河野 栄子様
伊藤 嘉章様
木下 奉章様
米澤 順子様
村田 秀子様
杉山 秀美様
矢島 幸男様
加藤 幸子様
教務委員長 村田 幸子様
高田委員長 高田 幸子様

総明会

1959年開催の第20回総会で命名された。初代校長の鶴澤総明先生のお名前をいただき、かつ、明中高同期会と同窓生の総体の連帯を意味するものである。



とき 平成11年11月20日(土)

ところ

午後4時講演会開演
帝国ホテル
(総会・懇親会詳細は20面)

第35回総会に寄せて

総明会会長 向 殿 政 男



四七四七同志酔会というユニークな名前を持つ同期会が今回のホスト学年です。現在、母校の教員をされている田中徹太郎先生が会長をされている昭和四十七年卒の同期の方々です。着々と準備を進め、その纏まりの良さは頼もしい限りです。今年も又、例年の如く素晴らしい総会と懇親会が期待出来ると思います。そして、いつもの通り、総会の前には卒業生の名士による講演会が計画されています。常連の方はもちろんですが、普段、総明会の会合には余り顔を出されない卒業生も、この機会に、是非、ご出席下さることをお勧めします。きつと、楽しく、得るものがあると思います。

した。しかし、本会報に掲載されている会計報告にも有るように入は、各同期会からの学年会費収入はそれ程多くはありません。残念ながら、現在の総明会には、総明会活動の新たな発展のための基金や、母校を経済的に支援するための基金がまったくありません。そこで、昨年度の卒業生から、学校側とPTA側の協力により、終身会費制(従って、個人会費制)を採用し、卒業時に終身会費を頂きその学年からの同期会の学年会費をなすことにしました。当面はこの終身会費のかんりの部分を「特別基金」として、次世代の総明会の財政基盤の確立のために蓄積して行くことに致しました。

さて、母校は移転問題も含めて何十年に一度という大変革の時期を迎えております。是非、母校が歴史的観点と長期的な視野に立つて、これからの生徒のためと母校の発展という立場からより良い選択と決断をされることを期待し、その決定に対して総明会としては全面的に支援をして行きたいと思っております。一方、総明会の方も又、少しずつですが、現在、会として確固たる基盤を築くための変革の最中であり、今回は、その中でも財政基盤の確立のための会費制度の改革についてご報告したいと思っております。これまでは、新入会員の入会金と各同期からの学年会費で運営されて来ま

のような趣旨を御理解いただき、総明会を次世代に引き継ぐためにも、是非、皆様のご協力をお願いする次第です。最後に、本総明会の産みの親でもあり、育ての親でもあった片岡龍夫名誉顧問が、この二月ご逝去なされたという悲しいご報告をしなければなりません。片岡大先輩のご冥福をお祈りしたいと思います。先般、ご遺族の方から故人の御遺志で総明会に寄付をしたいというお申出がありました。上記の「特別基金」の一部として、故人の御遺志とご遺族の有難いお申し出を有難くお受けすることに致しましたことを皆様にご報告申し上げます。

とちの木通り



校長
清水紀夫

第三十五回総明会総会を心から
お祝い申し上げます。

明治中学校は、明治四十五年
(一九一二年) 明治大学の創立
三十周年を機に創立した中学校
です。

明治中学校初代校長は、明治
大学理事、法学博士鶴沢総明先
生です。先生は、明治・大正・
昭和の三代にわたって法曹界・
政界・学界に活躍し、特に、極
東国際軍事裁判において日本側
弁護団長として大任を果たされ
たことで有名です。先生は、就
任してから昭和二十一年に辞
任するまで三十数年にわたって
校長をつとめ、明治中学を育て
上げられました。

本校の教育は創立以来、明治
大学の建学の精神である「独立
自治」を受け、「質実剛健」の
氣風を体得し、知・徳・体の調
和のとれた生徒の育成を目指し
ています。

「白雲なびく駿河台」の校
歌に歌われる建学の精神が、明
治中学・明治高校を卒業された
皆さんには、しっかりと身につ
いていると思います。時をおい
日があつにつれて、母校明治が
掛け替えの無い存在となってい
ることでしょう。恩師、級友、
クラブの仲間・先輩・後輩と皆
さんの大切な宝を手にした青春
の日々を送った学び舎、明治中
学・高校は、平成十四年(二〇
〇二年)に「創立九十周年」を
迎えます。その記念事業の一つ
で「九十年のあゆみ」なる校史
を作るために、教職員を始めと
して本校を退職された先生方
もお手伝い頂き校史編纂の準備
がなされています。

また、本校の歴史は卒業生一
人ひとりの思い出のページでも
あります。生徒会や各班・部の
活動状況、総明会のあゆみ、各
年度の卒業生の思い出も掲載し
たいと考えています。それには、
総明会のご協力を要します。

本校の輝かしい歴史と伝統
が、未来永劫であるために、温
故知新ということば通り九十年
の営々たる歩みを想起出来るよ
う、編纂委員の皆様にお願いい
たします。

「組織は人なり」というよう
に、本校は、一万五千有余人の
幾多有為なる人材を輩出し、政
財界、法曹・教育・報道・出
版・芸能など各界にわたって活
躍しています。その人々を統合
する総明会には、益々の飛躍・
発展を期待します。

総明会発展の一翼を担うの
が、総明会ホスト学年の団結で
す。今年の「四七四七同志酔会」
の皆さんも、数年前から同期会
や準備委員会の会合を重ねて、
本年の総明会総会開催の運びと
なりました。それぞれが自分の
仕事に従事しながら、ホスト学
年としての役割を果たす努力を
なされている事に心より感謝申
し上げます。

さて、今年四月十七日の土曜
日の昼さがり、私が帰宅途中の
ことです。「とちの木通り」を
文化学院前にさしかかったとこ
ろ、昭和四十六年卒業の面々が
約三十名、集まっていました。
彼らの高校三年間、私が数学を
担当し、担任を持った学年で、
とても思い出のある卒業生たち
です。話を聞くと、昨年、総
明会ホスト役を受け持ち、その

総会を無事果たせた事を喜び
「打ち上げ」を熱海で行うため、
バスの出発を待っているという
ことでした。私にも参加するこ
とを求められましたが、急な事
と夕方に会合があったため、残
念でしたが同行は無理と答えま
した。しかし、小田原までなら、
ということバスに乗り、東
名高速・小田原厚木道路をミニ
旅行させて頂きました。その折、
色々な話題がありました。ある
一人が「とちの木通りの栃の
木が、ものすごく立派に成長し
ていますね。」とひとこといわ
れました。

私は、本校に就任して三十五
年間とちの木通りを通り、その
美しさは感じていましたが、成
長について気に止めていません
でした。

仰ぎ見る
樹齢いくばくぞ 栃の花
(作 杉田久女)

と、とちの木通りの栃の木を新
たに観察してみました。
栃の木は春から初夏にかけて
若葉を茂らせ、白や淡いピンク
の花を咲かせ、木々の息吹きを
感じさせます。

その葉も夏になると大きさを
増し、見事な濃緑のトンネルと
なって、行き交う人に清涼感を
与えてくれます。

晩秋になると葉を落とし、隠
れていた枝を表します。
無雑作に宙天に張った枝は、
吹き荒ぶ寒風に耐え、素朴な美
しさを見せてくれます。樹皮の
下には、脈々とした生命が溢れ
ています。その幹を支える根は、
広く、深く、伸び伸びと張っ
ていることでしょう。

とちの木通りの栃の木は、大
人の腕で抱えきれないものもあ
ります。このように美しく立派
に成長した栃の木の年輪は、卒
業生の皆さんの社会における活
躍と素晴らしい人生の年輪、明
治の歴史でもあると思います。
皆様の益々のご繁栄、ご活躍
と総明会のさらなるご発展をお
祈り申し上げます。

学校法人
明治大学理事長
岡村 了一

学校法人
明治大学総長
栗田 健

学校法人
明治大学学長
戸沢 充則

明治高等学校校長
明治中学校校長
清水 紀夫

昭和三六年卒業
総明会会長

向 殿 政 男

〒一五八〇〇〇八一
世田谷区深沢五―一八―二〇
TEL 〇三―三七〇一―一六九一

昭和二九年卒業
総明会副会長

山 浦 晟 暉

〒一六七〇〇〇四二
杉並区西荻北三―二八―一
TEL 〇三―三三九四―二二五五

昭和三二年卒業
総明会副会長

山 崎 敬 生

〒二七二〇〇〇三一
市川市平田一―一八―八
TEL 〇四七―三二六―一六五〇

昭和四一年卒業
総明会専務理事

尾 島 育 四 郎

〒一五〇〇〇〇〇一
渋谷区神宮前五―四二―一五
TEL 〇三―三四〇〇―二九五

明中一七会

会長 卜部 芳郎(昭和17年生)

事務局 伊奈崇秀雄

安藤 賢司

〒二六〇〇〇一三
荒川区西白暮一―三五―一七
TEL 〇三―三八九一―三五三七
(伊奈崇)

昭和二年卒
牛巳の会(同期会)

常任
世話人 齊 藤 久 也

(旧制21・22年卒合同の会)

祝 第35回総明会総会

猿 楽 会

昭和26年卒

会 長 卯 木 敏 夫

昭和30年卒業 同期会

会 長 大 場 隆 之

副会長 (A組主幹) 伊 藤 寿

〃 (B組主幹) 八 十 島 庸 郷

〃 (C組主幹) 西 秋 忠 男

〃 (D組主幹) 田 村 正 彦

会 計 中 瀬 裕

〃 中 堀 茂

幹 事 長 石 田 彰 之

事務連絡先

〒二七五〇〇〇二二
千葉県習志野市袖ヶ浦
四―一五―一四(大場方)
☎ 〇四七四(五三)二九七三

21世紀の教育に躍進する駿台グループ

駿河台大学

駿台予備学校

全国入試模試センター
大塚・駿台オーブンスクール
駿台国際教育センター

駿台甲府高等学校

駿台甲府中学校

駿河台大学第一幼稚園

駿台進研リテンズスクール

駿台個別教育センター

駿台電子情報専門学校

駿台外語総合学院

駿台留学センター

駿台トラベル&ホテル専門学校

駿台法律経済専門学校

駿台理工専門学校

駿台観光&外語専門学校

駿台法科専門学校

駿台ホテル観光事業専門学校

学校法人 駿河台大学 総 長

学校法人 駿河台学園 学園長

理事長 山崎 春之(第27回卒)

大 学 埼 玉 県 飯 能 市 阿 須 6 9 8 ☎0429(72)1111
学園本部 東京都千代田区神田駿河台2-5-17 ☎03(5259)3111

平成十年度活動報告

部制度から委員会制度に

専務理事

尾島 育四郎

総明会は、今年創立三十五年を迎えます。この間母校に学んだ同窓会員が、会員相互の親睦を図り又母校との協力関係・賛助活動を維持推進することを目的として活動してまいりました。

向殿会長を中心に、総明会組織のあり方を従来の「部」制度から「委員会」制度に移行すべく、各委員会は担当役員の下に設置し、事前に打合せをして担当役員の了解の下に、理事会に議題を提出して理事会の了解の下、評議委員会に報告・審議する制度に移行する事にいたしました。その為理事会は年五回開催する事に決定いたしました。以上のように組織を活性化することが、今後若い会員の皆様が総明会に参加する意識を確立するよう活動してまいります。

現在本会は事務局長のS四十四年卒服部雄二理事を主幹に、会計S四十四年卒関合理事を初め下記の構成メンバーになっております。

下記の各委員長の統括の下で、きわめて円滑に活動を進めております。

☆総会は、第三十四回を迎え、昭和四十六年卒同期会「明潮会」の担当で十一月十四日ホテルオークラに参加者三百八十余名をみて大盛況のうちに開催されました。総会において秋に五年振りに発刊しました名簿の報告・各支部の活動報告をいたしました。又前専務理事三浦昭生氏に長年の労苦に対して感謝状が渡されま

各委員会の役割と構成メンバーについて

名 称	内 要	委員長	副委員長	委 員
ゴルフ委員会	総明会ゴルフコンペを開催する。ゴルフコンペの充実のため、内容を企画する。	阿部正行 (昭和40年卒)	北島 弘 (昭和45年卒)	
行事・企画委員会	現事業部の仕事を継承する。会員の親睦を図るため、種々の行事を企画運営する。	結城康郎 (昭和42年卒)		
財務委員会	現財務部の仕事を継承する。総会・会報・(M)の運営費の検討をする。長期的展望に立った財務計画に基づき、各年の予算計画を行う。抜本的な財務改革等、広い視野に立った基本路線を構築する。	増田利明 (昭和38年卒)	北島 弘 (昭和45年卒)	
組織・クラブOB会委員会	現組織部の仕事を継承する。組織の充実を図る行事を企画運営する。クラブOB会を充実させ、行事を企画運営する。	高村光昭 (昭和37年卒)	中尾忠則 (昭和43年卒) 金子敏一 (昭和46年卒)	中村裕次 (昭和45年卒)
総会委員会	総会・懇親会の開催に協力する。幹事学年と連携を取り、開催成功を図る。幹事学年と連携を取り、総会・懇親会の内容充実を図る。	比留間竹郎 (昭和45年卒)	廣野宏士 (昭和47年卒)	関根伸光 (昭和48年卒) 熊倉章雄 (昭和54年卒)
会報委員会	総会・会報の発行に協力する。幹事学年と連携を取り、会報の内容充実を図る。寄付金・広告費について、円滑に集める協力をする。寄付金・広告費について、財務と協議し、将来に備える。	佐久間洋一 (昭和43年卒)	谷 正之 (昭和36年卒)	原田 繁 (昭和44年卒) 安藤高利 (平成5年卒)
(M)委員会	(M)ホットラインの発行に協力する。編集スタッフ(現役学生)と連携を取り、会報の内容充実を図る。寄付金・広告費について、円滑に集める協力をする。寄付金・広告費について、財務と協議し、将来に備える。	菊地博道 (昭和41年卒)	田中 誠 (平成5年卒)	谷 正之 (昭和36年卒) 北島 弘 (昭和45年卒)
総務委員会	理事会・評議会の開催を補佐する。(連絡・記録)各委員会の運営を補佐する。会旗等備品を管理する。	米山廣昭 (昭和40年卒)	中村正容 (昭和43年卒)	平田 健 (平成10年卒)
名簿委員会	総明会の名簿を管理する。総明会役員の名簿を管理する。同期会別・クラブOB会別の名簿検索を検討する。	山形英明 (昭和45年卒)	大橋荒太 (昭和58年卒)	
運営委員会	事務局の運営が円滑に行くよう、企画・検討する。事務局として、総明会全体の運営が円滑に行くよう、企画・検討する。シニアクラブの検討をする。	家中 勉 (昭和44年卒)	福田正知 (昭和44年卒)	

した。懇親会では、明治プロムナード・男坂記念写真コーナー・明治高校近況のVTR上映等の演出により新・旧いずれの会員からも人気を博し、好評裡に終了しました。

☆総明会機関誌「M」在校生へのパブリシティとして明大在学中の若い会員のご協力をえて十二月二十四日に学校・父兄の評価も高く無事に発刊を致しました。

☆総明会ゴルフ大会 第五回ゴルフ大会が十一月四日(日)に三十五組一四〇名余の参加を得て大盛況のうちに開催されました。

☆明大一二〇周年寄付金 第二回目十二月・第三回目三月に総額で百萬圓を寄付致しました事を報告します。

☆中野高等学校校友会「武陵会」一月末に相互の役員十名にて交流会を開催しました。五月三十日「武陵会」総会・懇親会に会長・専務理事が出席致しました。また「総明会」総会には、武陵会より正副会長・常務理事が出席下さいました。兄弟校として末長い絆を結び、互いに連帯活動をしていきたいと思ひます。

☆新入会員 二百十八名の方が新しく会員になりました事を報告します。

☆総明会評議委員会 各学年で構成する評議委員会は、今年度三回開催致しました。又十一年度より各学年の年度会費を壹萬五仟円より貳萬五仟円にする事を評議委員会で決定しました事を報告します。

☆明治中学・高校行事への参加 四月六日入学式・十月体育祭、十一月文化祭・バザー、二月新入会員のために説明会、三月十日卒業式等に、正副会長・専務・事務局長が参加致しました。

総明会では未だ同期会の結成されていない学年の皆様、本部では各委員の皆様が応援を致しますので、学校の総明会事務局宛にぜひご連絡下さい。詳しい資料で協力を致します。

平成11年度 総明会役員

名誉会長 (昭和九年卒)

坂本 朝一

会長 (昭和三十六年卒)

向殿 政男

副会長 (昭和二十九年卒)

山 浦 晟暉

副会長 (昭和三十二年卒)

山 崎 敬生

専務理事 (昭和四十一年卒)

尾島 育四郎

顧問 (校長)

清水 紀夫

顧問 (昭和二十一年卒)

小林 昭雄

顧問 (昭和二十六年卒)

卯木 敏夫

監事 (昭和二十五年卒)

高橋 信雄

監事 (昭和三十年卒)

大場 隆之

事務局長 (昭和四十四年卒)

服部 雄二

会計 (昭和四十四年卒)

関谷 芳久

学校代表

下野 進

会旗担当 (昭和三十一年卒)

伊藤 茂雄

新評議員紹介

本年も卒業学年より、二名の新評議員並びに三名の学級幹事が決定いたしました。

今後とも総明会を担う若手の一員として、必ずや活躍して戴けることとします。

ご紹介いたします。

総明会評議員
石川 一 仁
戸邊 寛
清水 雄一
吉田 勉
白川 誠
田 誠

税務・会計・経営・会社設立 森会計事務所

税理士 森 敏孝 (昭和37年卒)

事務所 〒229-0037 相模原市千代田3-1-17
TEL 0427(58)1933代 FAX 0427(58)3729
白 宅 〒229-0037 相模原市千代田6-4-8
TEL 0427(58)3729

株式会社 シティ・ハウジング

代表取締役 佐藤 仁
(昭和39年卒業)

本社 東京都大田区西糀谷4-28-14
TEL 3742-7177 FAX 3742-8207
糀谷本店・蒲田東口店・大森店・五反田店・雪が谷店

稲垣 秀明

昭和四十四年卒
(有)水戸興産
東京都知事免許(第)第六六一四号
〒一〇一〇〇五
千代田区神田新保町二一四
TEL 三三六二七七七代
FAX 三三六四〇四八九

昭和四十四年卒

(株)総合会計社

田嶋 幸一

大谷会計事務所

大谷 治

大晴工業(株)

大塚 洋一

昭和五十二年卒

パートナーズ総合事務所

司法書士

菅原 誠

台東区台東三二四二一七
TEL 三三三九一四四八
FAX 三三三九一四二三八
TEL 三三三九一四四八
FAX 三三三九一四二三八

42年卒 トーマツ監査法人

後藤 孝男
笹井 和廣

42年卒 朝貝公認会計士事務所

朝 貝 省 吾

総明会 平成10年度 会計報告

(自)平成10年4月1日～(至)平成11年3月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	4,392,075	会 議 費	278,324
平成10年度会費	345,000	通 信 費	33,660
新入会員入会金	2,180,000	事務・印刷費	823,667
名簿売上金	28,000	公 用 費	502,304
「M」広告収入	480,000	活 動 費	707,087
東武トラベル	198,810	「M」活動費	480,000
46年度幹事学年貸付金	1,000,000	明大寄付金(第2～3回分)	600,000
新入会員特別基金	1,360,000	名簿購入代(予備分)	500,000
雑 収 入	309,162	第34回総明会総会補助金	280,791
預 金 利 息	1,965	雑 費	103,990
合 計	10,295,012	次年度繰越金	5,985,189
合 計	10,295,012	合 計	10,295,012

上記の通り報告致します。平成11年3月31日
会 長 向殿 政男 会 計 関谷 芳久
監査の結果相違ありません。平成11年3月31日
監 査 高橋 信雄 ⑩ 大場 隆之 ⑩

本年度も、会員、年度幹事、役員皆様の暖かい御協力のもと、無事会計報告が出来ました事を、まずもって感謝申し上げます。

本年度は、明大創立一二〇周年の寄付金百万円のうち残りの六十万円を支出致しました。また多額な資金を要するだろうと思われた新名簿も、関西廣済堂様との契約により五十万円で済んだ事が、特筆すべき事項でした。

来年度からは、財務安定化の観点から、各学年からいただく年度会費を一万円値上げして、健全な財務体質を目指します。今後とも、一層の御協力の程よろしくお願い申し上げます。

健全な財務を目標に

会計 関谷 芳久

第34回 総明会 総会会報特別会計報告

平成10年11月14日

収 入 の 部		支 出 の 部	
	実 績		実 績
総会会費収入	2,465,000	総会関係費	4,225,793
広告掲載料収入	2,031,000	会報関係費	2,027,876
寄 付 金	1,288,000	運営関係費	290,666
その他収入	479,544	欠 損 金	▲280,791
合 計	6,263,544	合 計	6,263,544

総明会 平成11年度 予算案

(自)平成11年4月1日～(至)平成12年3月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	5,985,189	会 議 費	300,000
平成11年度会費	450,000	通 信 費	100,000
新会員入会金	2,200,000	事務・印刷費	1,200,000
名簿売上金	30,000	公 用 費	500,000
雑 収 入	300,000	活 動 費	1,000,000
「M」広告収入	480,000	次年度繰越金	6,345,189
合 計	9,445,189	合 計	9,445,189

第35回 総会会報特別予算案

収 入 の 部		支 出 の 部	
第35回 総会会費	3,000,000	会 場 関 係 費	3,300,000
第25号 会報広告料	3,500,000	会 報 関 係 費	3,100,000
		会 事 務 費	100,000
合 計	6,500,000	合 計	6,500,000

OBの皆様へ

『総明会・特別基金』
「ご協力をお願い」

副会長財務委員会 山崎 敬生
財務委員会委員長 増田 利明

『特別基金』設立の趣意

この度、総明会におきましては、新たに『特別基金』制度を評議委員会のご賛同を得て発足する運びとなりました。昭和四十年の総明会発足以来、会の運営基盤は各期ごとの学年会費制を中心として維持されてきております。総明会は、会の運営や会員名簿の整備等の責務を担ってまいりましたが、未納入の学年も多く、財政基盤の強化が大きな課題とされておりました。

今回の『特別基金』は、個人会費制ではない現況の中で、各OBの方々の母校への想いと窓への温かい愛情をこの新制度の中で集約させて次世代への財政基盤の確立を目指して設立されたものです。具体的には、①不況等において学費未納の現役学生への奨学金の支援、②総明会の将来的な活動資源、③母校及び母校各クラブへの支援、④卒業生による同期会・OB会への支援、等を支柱とするものです。

OBの皆様、お一人お一人の善意とご厚情が基金へのご寄付の姿で、母校明治の旗の下で結集することを心より願っておりますので、何卒、ご趣旨ご理解の上『特別基金』へのご参加を伏してお願ひ申し上げます。

尚、平成十年度卒業生より、学校、PTAのご理解の下に、個人会費制をとり、終身会費として壹万円を総明会に納入して頂きました。毎年二百万円以上に達するこの資金は、一般会計ではなく、この『特別基金』に参入しておりますこと、併せてご報告申し上げます。

ご寄付の方法

- 金額 個人 一口 壹万円
法人 一口 三万円
尚、ご協力頂いた個人及び法人は、特別基金への協力会員及び協力法人として登録させて頂きます。

2. 納入方法

銀行振込又は、郵便振替による払込をご利用下さい。尚、振込手数料は各自ご負担下さいますようお願い致します。

・さくら銀行西新井支店
普通預金 6741677
口座番号 6741677
口座名義 総明会 関谷芳久
郵便振替をご利用の場合は、同封の払込票をご利用下さい。

加入番号
明治高等学校同窓会 総明会
口座番号 00170-6-93825

最後に

総明会は、母校の現役生徒に對し、意義ある会として、その運営に精進してまいります。今後ともご支援、ご協力のほど宜しくお願い致します。

今月二月に逝去されました片岡龍夫名誉顧問のご遺族の小平紀子様から、個人の御遺志ということで総明会に百万円の御寄付がありました。今回設立された「特別基金」に繰り入れることに致しました。

昭和四四年卒業

有限会社

トラカツ

諏訪勝成

TEL 三八六七―六二九三
FAX 三八六七―六二九七

明治高校同窓
木場グループ

18年卒 帝路製材社 落合 博
23年卒 夢大木材社 大堀 雅義
29年卒 大出産業株 大出 彰
30年卒 細田木材工業株 細田 孝治
31年卒 大出産業株 大出 育男
32年卒 瓶本木材社 二瓶 満吉
34年卒 南丸三商店 渡辺 徹郎
34年卒 南前崎材木店 前崎 安義
35年卒 細田木材工業株 細田 悌治
35年卒 南丸三商店 渡辺 治
37年卒 大出産業株 大出 宏
38年卒 丸九水産店 小川 洋一
38年卒 数大製材株 村井 宏次
38年卒 丸九水産店 野澤 康衛
39年卒 昭栄木材 堺 健一
39年卒 福寿木材株 鈴木 政明
40年卒 東京正商店 鈴木 正之
41年卒 丸九水産店 小川 秀次
41年卒 株吉村商店 吉村 竜郎
41年卒 中村木材株 中村多喜男
42年卒 株亀清商店 亀井清一郎
42年卒 株森商店 森 秀男
43年卒 株木下商店 木下登志一
43年卒 南坂田商店 坂田 真彰
46年卒 南野商店 庄野 國彦
46年卒 株平岩商店 森 暁二郎
46年卒 金子ベニヤ商會 金子 敏一
56年卒 株タツミ建装 小林 功治
57年卒 共本材株 小泉 勝
58年卒 株鴨川商店 鴨川 佳明

昭和三四年卒
小坂法律事務所
弁護士
小坂 嘉幸

〒一〇〇〇〇五
台東区上野三―一七―八
田沼第一ビル四階
TEL 三八三―一六〇三二
FAX 三八三―一六〇三七

アトリエクマイ

熊井 實 (昭和26年卒)
熊井 毅 (昭和59年卒)
本社 〒一〇〇〇五
東京都千代田区錦町一八
TEL 〇三―三九四―一八三一
アトリエ 〒一〇〇〇五
東京都千代田区錦町一八
TEL 〇三―三九四―一八三一
FAX 〇三―三九四―一八三一

寺村梱包株式会社

代表取締役 寺村武二 (昭和26年卒) 東京都文京区本郷二―一九―一
取締役 寺村一義 (昭和36年卒) TEL 〇三―三八一―三六六八六
FAX 〇三―三八一―三六六八六

昭和三三年卒
二村商事株式会社
代表取締役 二村 昌也
〒一〇〇〇三
東京都文京区本郷二―一五―二
TEL 〇三―三八一―四四四六九
FAX 〇三―三八一―四四四六七

昭和三三年卒
株式会社富士産業
藤義商興有限公司
代表取締役 藤 田 義茂
〒一〇〇〇三
東京都文京区本郷二―一五―二
TEL 〇三―三八一―四四四六九
FAX 〇三―三八一―四四四六七

昭和三四年卒
すき焼 割烹
神田明神下
石橋 義一
〒一〇〇〇三
東京都文京区本郷二―一五―二
TEL 〇三―三八一―四四四六九
FAX 〇三―三八一―四四四六七

昭和三七年卒
包装資材・各種容器専門
高村製罐株式会社
代表取締役 高村 光昭
〒一〇〇〇三
東京都台東区松が台二―一八―二
TEL 〇三―三八四―一〇二二七
FAX 〇三―三八四―一〇二二七

OB訪問

スポーツ心



Ｊリーグ理事
柏レイソル社長 小林正三郎氏

九十五年、Ｊリーグに昇格したプロサッカーチーム『柏レイソル』を管理運営している株式会社日立スポーツ代表取締役社長であり、Ｊリーグ理事としても活躍されている小林正三郎氏（昭三十二年卒）にお話を伺った。

明大野球部史上屈指の名マナーＪリーガーの誕生秘話である。

小林氏は昭和二十六年明治中学に入学、ごく普通に中学生生活をエンジョイして、高校進学後、東京都ベスト４常連の硬式野球部に入学。甲子園を目指し厳しい練習の中で白球を追っていた。同期には国鉄スワローズ（現ヤクルトスワローズ）に入団して毎シーズン十八勝超する実力派でかゝる王貞治に第一号ホームランを献上した投手の村田元一氏がいる。

野球一筋で学生生活を送った氏が今やＪリーグの世界で活躍されているのは興味深いことだ。

大学卒業後、株式会社日立製作所へ入社した小林氏は、宣伝部に配属され同部長に昇格されるまでの間、会社のグラウンドにはよく出向き、各運動部の監督や選手たちとも顔なじみだったという。

――高校時代はどうでしたか？

「当時の我々は、バンカラで結構暴れて先生から度々注意をうけてたよ。授業もクラブも楽しいという思い出しがないなあ。」（小林氏談）

そんな小林氏も明大野球部の厳しさを知っていたので大学では野球をやめようと思っていたそうである。ところが高校三年二期終了後、氏の運動免許証・取得を開きつけた御大・島岡監督が半ば強制的に野球部マネージャーに勧誘、父親まで説得して、三学期は自宅を離れ明大野球部の寮から高校へ通ったという。

実は当時、明大からプロに入団した秋山登、土井淳ら『明大五人衆』から御大に贈られた外

車の運転手を求めているそう

氏「スポーツから縁の切れない」人生を支えているのは、氏のスポーツを愛する情熱と、その中に力強くうごめく『スポーツ心』に他ならない。

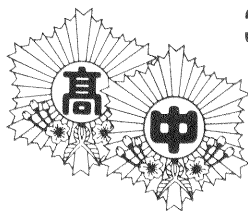
「『スポーツの普及を通じて健全で豊かな生活を築き、市民が楽しめるスポーツの環境づくりを推進する』ことが、Ｊリーグの掲げる百年構想であり、Ｊクラブと一体となって目的達成に向けて取り組んでいるところである。」

わが国スポーツの二十一世紀に向けての進むべき道は、企業依存型から脱却し市民レベル、地域生活レベルでの楽しむスポーツへと移行すべきである。そのためには国・自治体等行政の真剣かつ果敢な取り組みが必須で、そのことが国際社会における日本スポーツ全体のレベルアップにもつながると思う。」（小林氏談）



70周年を迎える明大中野
33,000人のかかえる武陵会

武陵会会長 高橋晴樹



私達の兄弟校である明治大学付属中野中学・高等学校は昭和四年、建学の精神を武蔵野の一角に掲げ創立されました。今年の十月で七十周年を迎えますが、その間、東京大空襲により校舎を焼失しました。しかし故片桐誠校長の強靱な精神力と熱意により復興され、昭和二十四年に明治大学の付属校として現在に至っています。

明治高校には総明会、明大中野校には武陵会という同窓会組織があります。「武陵」とは現在地の地名である中野区桜山町に因んで「武蔵野の陵（おか）」を表しています。昭和十年五月一日に発足され、約三万三千人の卒業生を、かかえた組織として「会員相互の親睦を図ると共に相互扶助を促進し、学校法人



中野学園の発展に寄与する」を目的に活動されています。具体的には年一回の定時総会の開催・機関紙『武陵』の発行・会員名簿の発行、および生徒会クラブ活動への財政的援助などです。

また、卒業式等の中で記念品・「武陵会長賞」の贈呈など直接的な形で学園に寄与しています。

現在の同窓会になる迄には紆余曲折した歴史があり、昭和十年当時、校友会は在校生を対象としてクラブ活動の充実をはかるために設置されていましたが、卒業生を対象にするようになったのは約十四年後の戦後に学園復興がなされてからでした。その後昭和三十四年に公益事業を目的とし、社団法人としてスタートしたのですが、諸問題をかかえ事業の拡大が困難となり、平成三年に法人を解散し、その後、校友会本来の目的にそくし、学園を支える一本の柱とした活動を展開している。

明球会

（明高硬式野球部OB会）

顧問	別府 隆彦
会長	卯木 敏夫
副会長	山本 晃裕
監査	宮沢 政信
幹事長	伊藤 文夫
副幹事長	浮貝 千春
事務局	須藤 貢一
会計	出間 俊昭
広報	加藤 和人
監督	原 宏孝
コーチ	熊倉 章雄
部長	郡司 晃浩
	卯木 敏夫
	濱田 薫
	田村 孝廣

祝 第35回総明会

明治中・高校

バレー部OB会

OB会会長

山口 一磨 27年卒

バレー部 顧問先生

山中禎一郎

OB

小川 滋	44年卒
大導寺和幸	44年卒
中村 一男	44年卒
服部 雄二	44年卒
伊藤 重雄	45年卒
星野 勲	45年卒
47年卒一同	

明卓OB会

（明高卓球部OB会）

名誉会長	宇田川雄弘	昭和30年卒
相談役	西村 昭	昭和30年卒
	井澤 勝彦	昭和32年卒
	小林 功明	昭和34年卒
	倉島 孝夫	昭和37年卒
会長	高橋 正佑	昭和38年卒
副会長	佐藤 信征	昭和39年卒
	秋田 直好	昭和40年卒
幹事長	遠藤 裕司	昭和47年卒
	佐藤 明弘	昭和55年卒
常任幹事	山崎 泰夫	昭和42年卒
	新川 利章	昭和40年卒
	堀川 貴司	昭和43年卒
	荒井 公一	昭和45年卒
	岩田 順義	昭和46年卒
	前原 正浩	昭和47年卒
	小川 武志	昭和47年卒
	田中 正幸	昭和48年卒
	佐藤 富良	昭和50年卒
	田中 純	昭和50年卒
	渡辺 英彦	昭和50年卒
	浅川 弘和	昭和51年卒
	小井土 功	昭和51年卒
	富樫 輝良	昭和52年卒
	鳴海 秀幸	昭和54年卒
	近藤 正宝	昭和55年卒
	西須 秀明	昭和55年卒
	川野 秀一	昭和57年卒
	西山 大典	昭和62年卒
	中西 雅行	昭和62年卒
	中谷 健志	平成9年卒

第20回記念OB総会は
明大リパティタワーで
10月17日開催致します。

卒業生同期会 作り方の ノウハウ提言



同期の談話を
二人の時も次回は三人に！
櫻井 正美 (60代)

循環する自然、生々流転する社会、そして社会を構成して変化する人間、その人間の情愛も無常であるに違いないが、そうあって欲しいのが我々の弱さであり強さでもある。

総明会組織改革初年度にあたり新組織として誕生した会報委員会は、総明会組織拡大の一助たんとするを目標に、その第一段、現職教員二十歳代～六十歳代の五名にお願いし、教員から見た卒業生同期会の作り方について貴重な意見をいただいた。

一万名以上にのぼる卒業生の中には個人の付き合いにとどまり、同期会に至らない学年も見受けられる。特に昭和五十年以降の卒業学年には多く見受けられるようである。同期会については、さまざまな考え方があり、いや、同期会なんて自分には関係ないと思っている人もいます。しかし、理屈はさておき卒業生として先輩、同期、後輩との語らひはまた格別なものです。そこで、各学年において「同期会を作りたがいればぜひ参考にしたい」だいたい。

下の共通する関心事を認識する幹事の方々には、かつての学友達との旧交を温め、更に人間関係を強く広くなる点を喜びとして、お手伝い頂けないだろうか。オー！お前の関係で集まり話合う同期会は、本部運営による講演会とは決して同じではない。同期会で活動する人間関係こそ余りに人間味ではないか。

緑なる巨英坂は急なれど
我行く学舎なびく白雲！
——進岳・拙吟近詠

あらゆる手をつくして

下野 進 (50代)



初めに、私の経験談を申し上げておきます。母校を卒業すると大学時代は、一般的に時間が比較的長くあるが母校に対する関心がそう高くない。が社会人となり多忙な新任時代を終えると、多忙の中にも余裕が産れて、将来に対する展望ができることも、自己の過去に対しても無性になつていく傾向がある。そこで同窓会は、ターゲットを三十代前後に絞ってPR活動を活発に展開すると良い効果が期待される。

では、以下に私なりの同期会の作り方についてアイデアをまとめておきます。

1. 班部単位と各クラス単位のまとまりを活用する。
2. 学年代表幹事を中心に、特に卒業時の担任・主任の協力を求めて、第一回同期会を開く。なお総明会が多めに援助金を支出すること。初めが大変だと思ふ。形式、内容は同期会幹事で検討するが以下の様なものはどうであろうか。(例)『ビジネスマンのファッシ

ョンについて』(アパレル会社等の協賛をもらうなど)

『モバイル・コンピュータライフにチャレンジする』(これも関連会社等の協賛をもらい、商品を出席者に抽選でプレゼントとするなどの企画をつける)

3. 同期会幹事がサークルの中心的存在であり、サポーターも含めて企画力・行動力を持った人物であつて人間的にもマグネットになつてほしい。その存在が同期会に大きな影響力を持つている、と言つても過言ではない。従つてそれなりの適任者が選出されることを望ましい。

4. 同期の卒業後の様子、活躍ぶり、近況等を同期会通信で配信するのはどうであろうか。(いささか係の手間がかかるが、何年か継続すれば大きな同期会の活力源になるかも知れない。)少々難かしい記事依頼で、他の先生方にも相談に乗ってもらい以上のようになつてほしい。何らかのお役に立つ点でもあれば望外の喜びです。

年輪にゆだねたい

鈴木 康巳 (40代)



総明会本部より与えられた課題は、日頃ほとんど考えたことのない話題で、田中先生より依頼を受けて、いざ原稿用紙に向かうたけれども、全く何を書いたらよいかわからなかつた。ほとほと困つてしまつたというのが、正直な感想である。しかし、何も書かないというわけにもいかないの、やや本題とは離れるかもしれないが、思うことを書

きつづることでご容赦願いたい。

私が明治に奉職してから、早いもので既に十八年の月日が経ち、その間に五つの学年の卒業生を送り出してきた。一番若い卒業生は昨年度卒業した現在大学一年生であり、逆に一番古い卒業生は昭和六十一年度に卒業した諸君である。その彼らとは、中一に入学したときから卒業までの六年間持ち上がりで受け持つたので、特に印象に残つてゐる。その学年の諸君も卒業して既に十三年になるが、最近になつてその学年のトップであつたS君と会う機会があつた。彼は東大から富士総合研究所に就職し、その後勉学のため、イギリスに留学、現在はスウェーデンで勉強を続け、うまくいけば、ストックホルムで教えることになるとのことであつた。ストックホルムでは、明大の岡野先生と面識をもつ機会を得て、母校卒ということでずいぶんかわいがつてくれたそうである。その彼がたまたま日本に戻つてくることになり、三週間程度の滞在期間を利用して、お世話になつた明大の先生方にお会いしたいという電話を受けて会つたのが、昨年の秋頃だつたと思う。

当時その学年を受け持たれた先生は、学年主任の下野先生をはじめ、藤田先生、清水克先生、星野先生という先生方であつた。二時間ぐらいの短い時間であつたが、昔話に花が咲き、楽しいひとときを過ごすことができた。彼の近況を聞くにつけ、国際舞台で活躍する彼の姿を頼もしく思った。その彼が短い滞在期間中に母校時代の友人たちと会うという話を聞いた。彼は中一より図書班に所属し、六年間活動を続けていたが、会う友人たちの多くは部活で苦業をともにした友人たちだったのであつた。東京に住んでいて、いつでも連絡がとれると思つていて、いつか、日頃あまり会わなくなつてしまふことが多いが、彼の場合、異国の地について、めつたに会える機会がないから、友人との再会は特別な意味があるのだと思う。

だと思ふ。

彼らの学年は今年三十一歳である。家庭をもつている諸君もきつと多いことであらうし、仕事の面でも今が一番脂ののつている時期であらう。S君のように、部活を中心とした親しい友人たちと、時々連絡をとりあつて会つてゐる諸君もきつと大勢いるにちがいない。そういった輪が広がつて、やがてクラスの輪に、そして学年全体の輪へとつながつていくのが理想だと思ふ。しかし、まだ彼らの世代はそういうゆとりのある年齢ではないだろう。もう少し年齢を重ねて子供も大きくなり、明治に子供を入れて学ばせたいと思ふようになった頃にはじめて母校への郷愁も湧いてくるのではないだろうか。本来そういうところから同期会の集まりが広がつてくるのではないかと思つてゐる。で、教員の立場の私が、同期会のつくり方などに口をはさむのは筋違いなのではないかと思つてしまふのである。

時が来たらここに連絡を

鈴木 正人 (30代)



この原稿依頼を受けたとき、正直言つて困つたと思つた。実は私自身が中学、高校と同期会をほとんどやっていないからである。その機会は三度ほどあつたように記憶しているのがあるが、いずれも他のスケジュールを変更できずに欠席した。しかし、私が同期会に消極的なのかと言ふとそんなことはない。むしろ次はいつあるのか、と心待ちにしている方である。この歳になると、仕事に疲れたときや、人生がなかなか自分の思う通りに行かないとき、純

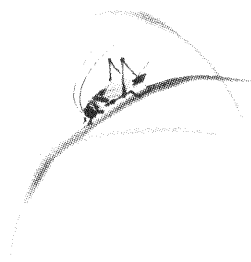
卒業生同期会の作り方

つきあいが大きな力

谷 伸彦 (20代)



私の大学には、知らないだけかもしれないが同期会はありません。ビンとこない面もあるのですが、私なりに考えていきたいと思ひます。私自身は、大学の友達との交流は卒業して四年目の今でも頻りにあります。それは部活動の友達がほとんどで、ちよつとした時に会つたり遊びに行つたり



しています。又、後輩の全国大会を観戦しに行く誰が集める訳ではないのですが、北海道の奴から九州の奴まで集まって、年に一回の大宴会が行われたりもします。その時には、お互いの近況や彼女の話などで盛り上がります。このように、生涯の友達が集まって酒を飲んだり、昔話に花を咲かせたり、馬鹿なことをしているようですが私は大切なことだと思っています。こんな流れが同期会というものに作ることができれば、色々な意味で活性化するのではないでしようか。

しかし、簡単にはいかないと思います。同級生の人数の違いや生活圏の違い、大学なのか高校・中学なのかなどにより、全ての同級生を集めて同期会をすることは、無理なのではないでしょうか。部活動やサークル活動、ゼミナール活動などの小さな集団から、お互いに連携をとりあい大きなものにしていく必要があるのではないでしようか。

このような中で私が考えることは、同期会というものは学生時代から、そして卒業してからもどれだけつきあってきたかという大きな力を持っているのではないかと思っています。

明高中の移転問題について

明高中の移転について、今般種々の噂が飛び交っている。そこで、この移転問題の推移と現状についてあらましを記したい。

1 移転問題の発端、移転先の選定

移転は、昭和四十年代から取り沙汰されていた。移転先については、当初読売ランド付近(現在某女子大所在地)が候補地として浮上し、次に明大生田、さらに横浜市青葉台、明大八幡山グラウンド、明大菅田農場(千葉市)と推移した。これらの候補地は、いずれも明大、移転先の地元、明高中内部の各事情によって本決まりには至らず、結局において移転を実現できなかったといわれている。

2 今回の移転問題について

一九九七年十二月明治大学が西調布にある某会社のグラウンド約一四、〇〇〇坪を取得して、この土地の使用目的に農学部・新学部・明高中の移転先等が考えられていた。

一四、〇〇〇坪といえば、調布市つつじが丘にある明高中のグラウンドと明大の野球場とを合わせた面積の約二倍の広さである。

ちなみに、千代田区猿樂町にある現在の明高中の面積は、約二二、〇〇〇坪である。

3 西調布の土地の周辺、環境

京王線の西調布駅から徒歩で十五分、JR三鷹駅、武蔵境駅からバスでそれぞれ十数分、周辺は住宅地であり、近くに調布の飛行場がある。

4 移転問題の背景

現在の学校の建物、施設は、その在校生徒数等から、現在施行されている東京都学校設置基準を満たしていないとされている。

また、校舎自体も、完成後四十年近く経過していることから老朽化が進んでいる。

こうした背景があつて、現在の校舎、施設を東京都の設置基準を満たすものに再構築する

か、他の土地に移転して新築、新設するかという選択を迫られた結果、移転問題が再浮上したのである。

5 移転問題の現状

現在、明治大学及び明高中の理事、教職員等で構成する明高中教育環境改善計画検討委員会を設け、同委員会が移転問題について協議検討を重ねている。

明高中の教職員も一昨年から継続して、移転することによるメリット、デメリットを各分野から分析し、検討を続け、これに関する意見を既に同委員会へ答申した。

例えば、移転した場合における通学通学の利便性、通学可能な生徒の居住地域、入学希望者数の変化、在校生への影響、移転先に造る校舎、施設の内容、規模、騒音、現在地に残る場合における校舎、施設の再建築の内容、規模、それぞれの費用面、などの分析結果に基づく意見である。

明治大学の理事サイドの意見もほぼ出揃い、早ければこの秋には移転問題についての最終的な方向性が明らかになる模様である(一九九九年七月現在)。

6 有名私立高の移転例

男子校では、日大三中、高が赤坂から町田に移転し、男子校から共学とし、最近では、慶應が藤沢市に中学、高校を新設して共学としている。また、報道によれば、早稲田実業が早稲田から国分寺に移転し、小学校を併設して共学にするということである。

女子校では、日本女子大の付属中高校が目白から読売ランドへ、移転した事例がある。

いずれも移転あるいは移転を報道されたことに伴い、新規入学者の数、偏差値に影響が出ているようである。

「移転についての本会員の意見」

●移転反対意見

明治中学校・高校の移転問題に付きまして、卒業生の一人として少々寂しい思いを感じます。現在の諸状況を考慮されて持ち上がってきた事とは存じますが、中学校・高校生活の数年間を神田駿河台へと通学して作った思い出は卒業生各々に多々有る事でしよう。

新しく入学される後輩にとつては、広い校庭で多種の運動部のクラブ活動、空気の綺麗な良い環境での勉強等、現状より改善される部分も有ります。母校の生徒が甲子園へ、花園へ、国立競技場へ、明治大学の他にも国立大学へ進学等、後輩の活躍を見聞き出来る事になればOBとしても誇りに感じ大変嬉しいものです。しかし又これまで卒業された沢山の先輩・沢山の後輩が、あの神田駿河台のあのスペースで築き上げてきた物は沢山有ります。先輩から後輩へ引き継がれて来て形になって残っている物、形にはなっていないが精神的な物、全てが神田駿河台に母校が存在するからこそ輝いているのです。

微力なOBで母校に対して何の援助は出来ませんが、様々な理由とはともかくとして、若き日の一時を過ごした明治中学校・高校が進化してゆく事には大賛成なのです。しかし精神的な人間形成の基礎を造って頂いた明治中学校・高校の我々の時の校舎が取り壊されて新校舎を見て寂しさを感じるのに、それが学校全体が移転となると大変残念なのですが、諸OB方々はどうお思いでしょう。

S・N

●移転賛成の御意見

故郷の駅を降り、橋を渡り、畦の草いすれの中を歩いてわが生家へ帰る。お茶の水・猿樂町・男坂の香りの中を通って母校へ帰る。醸し出されるこの香りに、九〇年の歳月が過ぎようとしている。

移転についての賛否。傍目八目的な視点で言えば、一刀両断簡単である。

懐古趣味と人は云うが、少年時代をあの校舎、あの雰囲気の中で時を過ごした我々卒業生となると、いろいろな想念が各人にある、情緒的にもこの問題は簡単ではない。まして、卒業生としての思い出で子息を母校に通わせている、あるいは、通わせようと思う親の立場でとなるとこの移転問題は、さらに複雑である。

現在、明治大学理事会の諮問機関「明治高校明治中学教育環境改善計画検討委員会」で更なる検討がされるだろうが、財務的には移転するにしても、財務的には移転するにしても相当規模の資金需要となると云われている。大変なことではある。

とは言え、我々の後輩の為の最高の教育環境が彼の地で可能であり、諸般の事情・時代の要請と云うことであるならば、我々卒業生の脳裏にのみ、お茶の水・男坂・母校を留めることを甘受して、彼の地への移転にあらゆる協力は惜しまない。

ただ、何れにしても、徒に拙速にはならないで、蝸牛の如くハード・ソフト両面に議論・意見聴取を呉れ呉れも尽くして戴きたいものである。

F・T

『仲間意識』を育もう

初の評議員

懇親パーティー”

事務局長 服部 雄二

(第21回 昭和44年卒)

毎年三回の評議員会に毎回多くの学年代表である評議員の方々が参加されております。いつも真剣な討議を学年の垣根を超え、行っております。

そして本年よりの新組織でも、評議員会が重要な機関であります。しかし先輩、後輩との真の友好と言いますか、校友としての仲間意識は、仲々出来にくいものです。

本来の同窓会とはその「仲間意識」を育む為のお手伝いをするのが、大きな目的の一つであると思います。仲々難しい事ではありますが、まずその第一歩は評議員同志の「仲間意識」を築こうという事で初のこころみとして懇親パーティーを行ないました。

日時 4月22日(木)
場所 リバティタワー23階
参加者 49名

昭和13年卒より平成11年卒の方というパーティーでした。

いつも難しい問題を討議している顔もアルコールと共に明治高校の代表と自負する方々の集まりだけあって非常に楽しいパーティーとなりました。

今後も年一回は、この様なパーティーを続けていきたいと思っております。

最後に評議員の方で、未参加の方も、まだまだ多数おられます。堅苦しい会ではありませんので、会議も、パーティーもぜひ御参加ください。冒頭申し上げました通り、総明会は評議員会が最も大事な機関です。これから評議員が核となつて、総明会を引っ張っていきましますので、皆様の御協力をよろしくお願い致します。

総明会行事・
企画委員会報告

委員長 結城 康郎

平成十年十一月十四日(土)三回目の講演会を行い、平成四年度及び平成十年度のレコード大賞受賞者前田俊明氏にスピーチをお願いいたしました。わざわざ楽器等を持参され、軽妙ななかにも興味深い話もあり、爆笑・好評のうちに終了いたしました。

本年度行事・企画委員会は、また平成十一年六月二十六日(土)千葉県富津海岸に於て、総明会会員と家族による「簾立て・天ぶらの会」を開催いたしました。

「簾立て・天ぶらの会」については報告記をご覧下さい。今後も面白い興味のある企画案があれば、ご連絡下さい。

簾立ての会同行記

昭和四十七年卒 廣野 宏士

六月二十六日は、朝から雨が降ったり止んだりの悪天候。記者は、前日、否、当日の未明まで飲酒しており、睡眠三時間。アルコールの血中濃度が大変に高くなった体を引きずって、東京駅の集合場所へフワフワとしながら到着。大人、子供併せて二十三名の参加者は、朝の挨拶もそこそこにバスへと乗り込む。土曜日の閑散とした日本橋のビジネス街をあとに、バスは高速から東京湾アクアラインを一路、富津へとひた走る。車中で配られたビール・ジュースに、向殿会長はじめ先輩連は現役時代の話に、家族連れの皆さんは外の景色や簾立てに話の花が咲く。

九時三十分、富津・青堀海岸到着。更衣ののち簾立ての現場へ。この頃には雨は小止みなく降り続く。冷たい雨に濡れながら、砂浜と海を歩くこと三百M、漁師の「潮が満ちて来たから急いで。」の言葉にせかされながら、

同期会活動紹介

五十才の父の日
——紫讃会——

老いも若きも簾立ての中で魚獲りに夢中。フッコ、太刀魚、鯛と大漁にわき立つ。砂浜近くにいるはずもない魚まで入る、という総明会マジック?もあり、二十三人がひとつのファミリーになったような、あたたかい雰囲気になった。

お次は、冷えた体を青堀温泉のコーヒー色の湯で温めるの段。湯ぶねは大人が六人も入れば満員御礼の大きさ。流し場もカラが四人分。そこへ他の団体とかち合ったものだから、さあ大変。人がひしめきあつて、さながら終戦直後の銭湯の様相を呈した。

昼食は自分たちが、今捕まえたばかりの生きのいい魚の刺身と天ぶらに舌鼓を打ちながら、杯をかたむけ大満足。

「海はたる」を見学し、東京に帰るころには、とても疲れたが、子供さんたちの笑顔や自然を満喫し、総明会事業の家族的側面を垣間見ることができた、有意義な一日に思ったより足どりは軽かった。



昭和四十二年卒
銀座中央法律事務所
小野寺 昭夫

〒一〇四一〇〇六
東京都中央区銀座八六一二五
TEL 〇三三三三三三三三三
FAX 〇三三三三三三三三三

昭和四十三年に明高を卒業した男達は、六月十九日(土)夕方六時、雨の中を、高ぶる気持ちを抑えながら、椿山荘に向けて足を急がせていた。今日は、第二回紫讃会総会懇親会の日なのだ。なつかしい顔を見つけた途端、すぐに気持ちは十代になっている自分に気付き、話はどうも事をしらない。

定刻より十分遅れの六時四十分、当時の生徒会長の長谷川君の司会により総会が始まった。紫讃会会長の佐久間君の議事進行により、会則が承認された。これで「紫讃会」は、晴れて学校、家族、社会に認められる組織になったのだ。二八〇余名の会員相互の親睦と「総明会」への協力を目的とする会則が承認され、年会費も徴収できることになって、金銭的な不安からも解放されることになった。中年真只中の男達にとって、子供の時から友達と一緒に遊ぶ事は、何事にも代えがたい楽しみである。これからの「紫讃会」の活動に期待したい。

ここでもう一つの同期会(仮称)「パープルクラブ」にふれなくてはならないだろう。明高の卒業生は、四十五歳の時に「総明会」の幹事をしなくてはいけない事になっている。我々が幹事になる時「総明会」の理事、評議員の方々に、大変心配をかけたが、なにをかくそう、表に出なくとも、裏では、同期会は活発に行なわれていたのである。それが「パープルクラブ」である。しかし、その活動は、学校、家族に認められるもので



はなかった。「総明会」の幹事をやるために「パープルクラブ」が中心になり、社会的に重い責任を持つ、弁護士、税理士、国税庁役人を、トップに据えて、誰でも参加が出来る、そして、学校、家族に認められる活動をするために「紫讃会」を作ったのである。紫讃会の設立でパープルクラブもこれに合体するようになった。

四十三年卒業生諸君、仕事に疲れ、人生に疲れ、家族に見放されたら、子供の時からの友達が、君をいやしてくれず「紫讃会」へ参加下さい。

P. S 「紫讃会ゴルフ」を毎年開催しています。詳細は小田島迄。ちなみに、健全な活動です。

第三回明々会の開催

入梅間近の六月六日、浅草ビューホテルにおいて、第三回明々会の総会が開催されました。「明々会」というのは、昭和五十一年卒の同期会であり、一年おきに開催することになっていますが、今年はちょうどその開催年に当たり、同期生が六十人近く参加しました。そして、恩師の先生方も、雨宮先生、清水先生、樋山先生、保坂先生、松本(理)先生、水落先生、山田先生、山脇先生(アイウエオ順)と、八人もご参加いただきました。懐かしいお話を頂戴しました。

総会では、総明会の幹事の年が数年後に来るということで、雰囲気盛り上げるためにも毎年明々会を開催すべきだとの意見が出され、その結果、二年後からは毎年明々会を開催すること、開催時期は秋ころを中心として、幹事に一任すること、などが決定されました。そして、総会の後は、ビンゴ大会も行われ、幸運にも複数枚のビンゴを当てて賞品をたくさん持ち帰る者(特に某先生)も出、大いに盛り上がりました。



昭和三十九年卒
加藤一也税理士事務所
加藤 一也

〒一〇四一〇〇六
東京都中央区銀座八六一二五
TEL 〇三三三三三三三三三
FAX 〇三三三三三三三三三

昭和四一年卒
菊本紙業
菊本 哲也

〒一〇四一〇〇六
東京都中央区銀座八六一二五
TEL 〇三三三三三三三三三
FAX 〇三三三三三三三三三

昭和三十六年卒
銀座シティ法律事務所
弁護士
谷 正之

〒一〇四一〇〇六
中央区銀座一八八一四
大新ビル八階
TEL 三五六一八八八六
FAX 三五六一八八八五

昭和三十七年卒
新麹町法律事務所
弁護士
福島 啓充

〒一〇二一〇〇八三
千代田区麹町四一五一一二
睦ビル六階
TEL 三三四一〇五一
FAX 三三四一〇五一

昭和四一年卒
山近・矢作法律事務所
弁護士
矢作 健太郎

〒一〇一〇〇〇六
千代田区有楽町一一三一一
DNタワー二階
TEL 三二一五五五五
FAX 三二一五五五五

昭和三十一年卒
明楽会
会長 中田 真之助

明治会

昭和32年卒業同期一同

明駿会

昭和36年卒

会長 加藤 眞義
副会長 谷 正之

昭和40年卒
明優会

事務局 坪田 達夫

☎(3947) 2 4 3 1

昭和44年卒
男坂クラブ

代表 福田 正知
副代表 富田 雅人
事務局 田嶋 幸一

恩師を偲んで

石川一郎校長先生を
偲んで



献吟拙詠・合掌

櫻井 正美

(明治高等学校PTA会報)

●浅野謹四郎先生

(国語科教諭) 七十九才



三学期始業式当日の早朝、石川先生御逝去の旨を初めて清水先生から伺って、全く愕然とした。

その直後の教職員朝会でも改めて先生の訃報が発表され、胸に込みあげるものがあった。

石川一郎先生は昭和五十二年四月から十一月まで校長として校務運営に御尽力された。本校へは終戦直後、早や昭和二十三年から旧制明治中学校当時に就任され、同五十二年末まで約三十年間にわたり、御専門の国語科教員としても多くの生徒を指導された。その間、専攻分野の学会で江戸文学の泰斗・指導者の役割を果され、江戸川柳研究会会長として後進の指導に当たられた。本校の卒業生にも先生の御薫陶をうけ、部活の国文研究部員から後に江戸文学の学者・出版者として斬界で活躍されている方々が多い。

一月十日(七日御逝去)の告別式に多くの教え子・関係者が長蛇の列をなし弔問に香華を手向けられたのは、先生のお人柄を表わすものと思う。幽明を隔つ今日、寂寥の感が頻りに迫る思いである。衷心より先生の御冥福を祈ります。

男坂 今朝も登りて 君思ふ
飛ぶ鳥 西へ 白雲なびく

昨年八月八日御逝去されました。

戦後唯一無事であった駒込の松平頼寺伯の染井能楽堂へ生徒と共に観能されるなど生徒共に歩まれた誠実なお人柄が偲れます。

・図書館建設に尽力され、書籍充実、読書指導に貢献されました。

・昭和二十三年・昭和五十四年専任教諭

・図書班、剣道部、聖書講読会顧問、生徒指導主任、東京都高等学校図書研究会幹事

●高木恭男(東扇)先生
(国語科) 八十一才



本年三月十八日御逝去。「教育は『感化』である。学ぶ事の感化は、教師自らが学ぶ姿にある」この先生の信条のもと、全日本学生清書コンクールで本校は、総理大臣賞三回、文部大臣賞二回、五年連続最優秀団体賞受賞をし、ご自身も日展で大活躍されました。

追悼

私の片岡先輩

第二代会長

片岡龍夫氏のこと

小林 昭雄

(旧制第31回昭和22年卒)



片岡龍夫その人は、総明会にとって最後の明治人であった。右の表現にはいさ、か注釈を要するであろう。即ち「最後の明治人」とは何か。――二重の意味において片岡先輩は「明治の人」であったのである。

その一は、今は無残に墮落した日本に、かつて感慨をもって生きた明治人の最後の世代であったということである。

その人たちは、単に明治時代の人ではないのである。日本の近現代史に厳然として存在し、今は消滅してしまった明治人、それは私たちが誇るべき日本人の一つの典型としての種族なのである。先輩はその一人として私たち後輩を導いて下さった。

その二は、真正の「旧制明治中学校元生徒」を表象する「明治」の人ということである。

戦後の学制改悪を始め様々な社会変革により、旧制中学校の美風はそこに学んだ人々の生命とともに減った。私たちの「明治中学校」も既に逝いて久しい。

先輩は、その今は亡き明治中学校の校風をよく体現されておられたのである。かつて私たちの母校は、三顧の礼をもって迎えられた鶴澤總明校長の下に、品格を持しながら自由でお、どかな校風を醸成し、私立の学習

院(当時官立)と称された。そして卒業生は多方面に自由に進路を選択して進学して行った。創立初期は旧制高等学校始め官学へ進む先輩が多かった。片岡先輩は第五回卒業で東京商科大学予科(現・橋大学)へ進まれ、卒業後第一銀行(現第一勧業銀行)を経て共同印刷株式会社に奉職、常務取締役時代に同窓会再建に関わられたのである。

先輩は、同窓会創立にお力を注がれ、発会後は副会長として初代笹村越郎会長をお支えになり、その基盤作りをなさった。そして昭和四十九年六月第十回総会において第二代会長に就任された。

その会長時代は、謂わば会の整備と新しい時代への転生の芽を育む期間であった。

そして私たちを奨励され、現在も行われている諸行事・諸規則を定められたのである。

○会則の改訂 ○名簿の再刊
○会報の創刊 ○会名の制定
○会旗の制作

○総会運営・会報編集の当番制
○会費納入の卒業年次別制
などが主なご事蹟である。

先輩は、当初より公の会合には殆ど皆出席され、そのご人徳により、議事の討議の場を、また座談に興じる団欒の席を、そこはかとなく発揮された。

穏やかなご表情で私たちの議論に耳を傾けられ、確かな人間観察深い状況判断による適切なご助言とご指示を下されるのが常であった。

また、公務を離れて寛ぐとき、その場は実にお、らかな心暖まる雰囲気包まれ、時間がゆったりと流れるのであった。

如何なるときにも悠揚として迫らざるあのご挙措とご口調をしみじみと想う。

終りになるが、新名簿の略年表の資料も、多年先輩がお手許に整理されておられたものである。昨年その資料拝借にお訪ねし、久しぶりにお話を伺ったときは、未だお元気であったのだ

が――。

旧制第五回卒業、総明会第二

代会長片岡龍夫氏は、平成十一年二月五日逝去された。告別の式は八日御自宅で行われ、清水校長を始め役員も参列しお見送りした。

中川洋服店
中川正久氏を偲んで



中川正久氏は大正七年生まれ、府立一高を卒業後銀座で修行、九年間の軍隊生活のあと、家業である洋服店を継ぐ、昭和二十二年頃から明治の指定洋服店となり、以後五十年近くにおたり明治中・高の学生服を取り扱ってきた。

毎日のように学校に通い、生徒たちと接するのがなによりも楽しみで、生徒からも「洋服やのおじさん」と親しまれてきた。

野球部が甲子園に出場した時にもまず先に駆けつけ、卒業生が社会にでて活躍した話を聞くとわが子のこのように自慢したという。薬師寺の故高田管長とも親交があり、その縁から中学の修学旅行は薬師寺で講話を聞くのが恒例となった。

学生服は話が一高校の証しであるといひ、生地や裁断には特に気をくばった。昭和四十五年夏服が現在のものに改正された際は生徒と何度も話し合ったそう。側面から明治中、高の歴史と伝統を守り続けたと言っても過言ではない。

平成に入った頃から体調を崩し入退院を繰り返したが春先の学生服の時期だけは頑張り続けた。しかしながら平成六年十二月十日七十六才で逝去された。

中川洋服店も昨年神田地区の再開発に伴いやむなく幕を閉じた。

祝 総明会第35回総会

見 心 会

明治中・高 剣道部OB会 会長 館 野 春 男 (S.13)

祝 第35回総明会

一 志 会

名誉会長 野村 和美

相談役 前野 重雄

会長 松村 光庸

副会長 皿井 啓之

三澤 真蔵

計 戸張 毅

古川 明男

幹事長 金子 正弘

副幹事長 石関裕一郎

常任幹事 岡本 力三

本橋 伸一

顧問 根岸 克行

野呂瀬 卓

小原良之

事務局 内田 茂

祝 第35回総明会総会 昭和45年卒

獅子の会

明治の心よ永遠に

六月十二日明治高校会議室に、四七四同志葬会の会員中、明高中に息子が通う者が集まり彼らが在籍していた当時と子息の代の明高中を語ってもらった。さらに現状をよく理解するため、当会会長で明高で教鞭をとる田中徹太郎君と二年後輩で同じく教鞭をとる則茂雄先生にも出席していただいた。司会は当会副会長の広野宏士君が務めた。

明高中時代を振り返って

司 まずは皆さんの明高中時代のエピソードをお聞かせ下さい。

- A 生活指導の先生は僕の顔を見ると必ず服装チェックしてくれたようだ。本当に楽しい学生生活だった。神宮では、応援団でもないのにヨウランを着て相手チームを睨んだり、それも愛校心かな。夏服は、当時の国鉄の駅員と同じ色で恥ずかしくて半袖白開襟シャツに着替えたりした。
- B 今の逃げを用意してくれたという話に通じるけど、規則とか表面上はとも厳しかったが、先生は一对一で会うととても優しくした。
- C 僕は、今は無き国文研究部でしたが千鳥ヶ淵でボートに乗ったり、皇居の回りを走ったり、電車の中で蟬のまねをしたりこれはクラブとは言えない。
- D 生物部も走るの好きな先輩がいて運動部でもないのに週に一回は走らされていたね。
- B そういえばマラソン大会があったでしょ、文化部でもや

たらと速い連中がいたなあ。E 私はマングラでしたが、練習は随分やらされました。合宿ではできるまで寝られないこともあった。

司 当時、中学は坊主にしなければいけなかったでしょ。僕は自身は小学校から坊主だったので全く辛く無かったけど皆さんはどうでした。

F 小学校から三人明中に合格したけどあとの二人は坊主が嫌で他の私立に入りましたよ。

A 生徒証が間に合わなくて小学校の卒業式の前に坊主にしないといけないのが辛かった卒業式に出るのが恥ずかしかった。

D 坊主も嫌だったけど肩から下げる白いカバンも嫌だった早く、高校生になるのが夢だった。

C 今から思えば、思春期を迎える前に雑念を取り払って、お寺に修行にいく心境に近いね。

田 今も中学も坊主ではないし、肩掛けの白い靴もなくなり夏服も白の開襟シャツで明治のマーク入りセーターであれば上に着て良いことになっています。また帽子も着用は自由です。

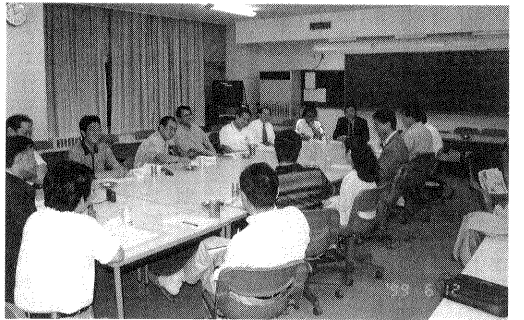
A 帽子がないと卒業式での帽子投げできないね。

田 今は紫紺の紙テープを投げることになってます。

親の思惑と現状

司 それでは、ご子息を明治に受験させたのはどうしてですか。

F 息子を明治に入れたのは自分が出たと言っただけではなく、地元の公立中学への不満



も一つのプラスの要素にした方が良いと思いますが。

H 子供は男二人が明治、特に勧めた訳ではなく、妻が文化祭などを見て一種独特の雰囲気があるという事で、子供と一緒に決めました。お茶の水にあり通学に便利だし、六大学のひとつというブランド意識みたいのがあるのではないのでしょうか。

司 そういう明治の良さとはなんでしょうか。

F いろいろの所から生徒が入ってきているので多くの刺激を受ける。会報の取材をしてみても友人との出会いを大切にしている人が多いですね。友達同志でいろいろやって影響を受け合っているのが一番だと思います。

H 受験が小学校、中学校で終わっているの、人間関係がゆつたりできて良い。息子たちは、皆それなりに勉強してきて基礎学力があるし、余裕のある環境でのびのびと育った。

I 息子は父親がインバクトのある生徒だったために、先生方には特に可愛がっていただきました。私もPTAの役員をしたこともあって本人もブレッシャーを感じる時期があった様です。一時は手がつけられなくて、これも血なのかと思います。

I 主人もそうですが、息子も友人関係がとて良かったお陰で助かりました。今、経営学部ですが、大学に入ってよかったという気持ちになってきたらしいです。

司 お二人が生徒だった時代と、最近の生徒とはどの様な違いが感じられますか。

則 偏差値が高くなった分、頭が良くなつて、家庭もしつけも良いようです。反面、何となく個性がなく、積極性もいまひとつという感じがします。私たちは先生に反発してしまいましたが、今は何か言えればそれでお願いします。

田 子供の純真な心はいつの時代も変わらないと思います。司 則先生が他校に在職していた時との違いは何かですか。

則 公立では成績にバラつきがあり荒れた学校もあるが明治は成績は一定のレベルで学級崩壊といった心配もありません。

司 文化祭PTAの活動はどうですか。

J 文化祭を見たときには自分の時のようなのびのびさとは違うと感じた。もっと個性を出してほしいね。

I 明治は、父母の学校行事への参加が盛んで、何時でも、息子たちの動向を見る事ができます。

H その点は文化祭を見に行つて驚きました。僕らの時代はこんなな父母が協力することは無かった。

C 僕は文化祭の委員長だったけど父母に協力してもらった記憶はないなあ。

司 ところで、皆さんは殆どの方が家業を継いでおられるようですが、それ以外の方は職業はどのように選びましたか。

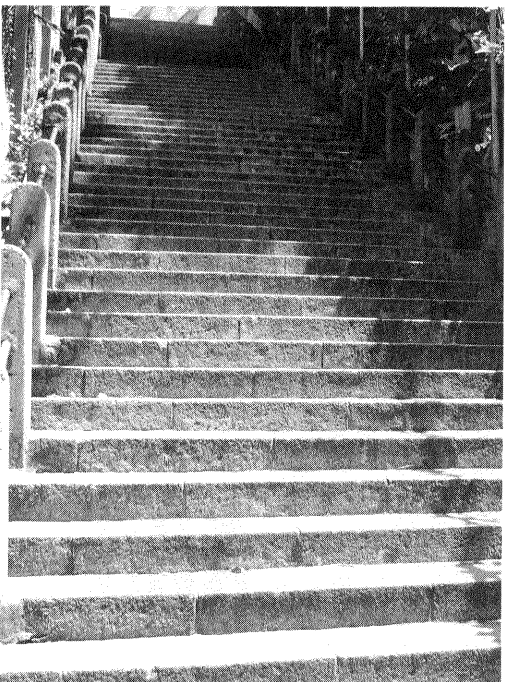
則 教師を選んだのは教職の単位を取っていたところ東京都の非常勤講師に就職難にもかかわらずなれた。

G 僕は弁護士をしています。が、司法試験を受験する気になつたのは中学一年の時、生徒会長だった先輩が司法試験に合格したと聞いてとても身近に感じたから。後輩も毎年一人は合格しており、一つの高校として統計をとれば全国有数の司法試験合格者を出している高校だと思います。

田 生徒の父親も弁護士、公認会計士といった資格職業も多くなりましたね。

司 明高中の校舎が西調布に移転するという話があるそうですが。

A OBからすれば気持ちは皆ここにいて欲しいということでしょうね。



生(理科、明高卒) 司会者 広野 (順不同・敬称略)

酒井・續法律事務所

辯護士 續 孝 史
(硬式野球部OB・昭和52年卒)
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-10-2
第2MKビル3階
TEL 03-3246-0170 FAX 03-3246-0190

昭和四十四年卒
日野旭堂(株)
日野 憲 一

〒111-0053
台東区浅草橋三五一五十四
TEL 三六八六一八九五(代)

昭和四十七年卒
三浦雅生
弁護士
〒104-0061
中央区銀座五一一一五
TEL 三五七五〇一九〇
FAX 三五七五〇一九二

昭和四十四年卒
(有)ホソヤ
細矢 日出男
代表取締役
〒104-0042
東京都中央区入船二一三六
FAXTEL 〇三三三五五一〇七二五



五木田・三浦法律事務所
弁護士
〒111-0043 東京都台東区駒形2丁目7番3号
電話 03-3841-7856番

『明治白駿会』とは!!

白駿会会長 山浦 晟 暉

総明会の輝かしいご発展、誠に同慶の至りに存じます。

明高には卒業生の同窓会である『総明会』と、父母PTAのOBによる同窓会『白駿会』が、公認組織の会として存在して居ります。

昭和四十三年福島校長時代、当時大学紛争が激しく、中学生にも三無主義(無気力・無責任・無関心)の風潮が流れ、中高教育も一つの曲り角の時期でありました。

そんな折、PTAのOBの方々が発起人となり、『質実剛健』を校風とする明高の卒業生は、世の風潮に流されるような大学生にならないような教育を、明高中の先生方に徹底して戴こうという主旨で結成されたと同って居ります。

その後、PTA・OB先輩方の友愛と結束のもと年輪を重ね、今年で創立三十二年を迎える歴史と伝統ある会に発展して参りました。

白駿会は、息子達が明高で学ばせて戴いたご縁での素晴らしい先生方や父母との出会いを、いつ迄も大切にし友愛の絆を深めながら、会員相互の親睦と教養の向上そしてPTAへの協力をすべく、現在一二五名の会員が毎年、新年会・観劇会・旅行会・音楽鑑賞会他、数々の企画を実施しながら、人生に充実した楽しい思い出の一頁を作る努力をしている。明治が好きで好きでたまらない人々の集りであります。

総明会会員の方の中に、息子さんが明高を卒業された方が居

明大推薦と国公立大併願制度

進路指導主任 山田 伸 夫

本校の活性化を目的として一九九七年三月卒業生(現大学三年生)から、明治大学の推薦を受け、国公立大学も受験できるいわゆる併願が可能になりました。スタートして三年間はテストケースとして実施してきましたが、大学側の深い御理解と御協力により二〇〇〇年以降も継続されることになりました。

進路指導面から見て、本校の活性化とは具体的にどのような面に現れるかを考えますと、

1、将来に対する進路の多様性が図られ、個性の伸長に結びつく

2、現在の急激な「少子化」に対応し、付属中・高を志願する生徒とその父母に「付属のよさ」に加え、「国公立併願」を保証することにより、本学への志願者が増え、より優れた志願者が増え、より優れた

3、受験勉強のない本校生徒は、基本五教科を学習させ、それぞれの得意分野を一層伸ばせる環境にある。学習面からの努力目標を持たせ、センターテストでの自己点検、評価を受けることによって、学力面で明高の成績のみで競争するのではなく、自己の学力を全国レベルで認識させることができる。

4、ほとんどの生徒が特別な受験勉強をしていないので、併願に失敗しても、与えられた環境の中で、自らが自己の学力を併願に依って精一杯発揮したことにより、明大進学後も、受験で入学した者と比較したとき、決して気遅れすることなく、自信をもって学力の向上に励むようになる。

祝 総明会第35回総会 吹奏楽班OB会

会 長 阿部 正行
(昭和40年卒)

以上のような多くのメリットのある「国公立併願制度」は本校としても今後継続をしていくことにより、本校の発展の一助となることを望んでいます。

明治大学昭和四十八年卒業
有限会社 秀 栄
高 橋 秀 行

東京都足立区足立四一三七一八

明治大学付属

明治高等学校図書班OB会

昭和四十七年卒
硬式野球部

「一八会」一同

活躍する 明中高生

アマ竜王戦県予選優勝 高ⅢC 伊藤享史君



高校三年在学中の伊藤享史君が五月二十三日に行われた「第十二回アマ将棋竜王戦全国大会」千葉県予選で見事優勝し、現役高校生としては県で初めて全国大会に出場した。予選には高校生から六十歳代までのアマチュア棋士六十四人が参加、伊藤君は逆転の連続で決勝戦に進み優勝候補の二十代の会社員に

圧勝した。全国大会では本選トーナメントで惜しくも敗退したが今後の活躍が大いに期待できる。伊藤君は小学生の頃から将棋に興味をもち始め、中学入学後将棋クラブに入部、その才能と努力で現在アマチュア五段の腕前。週一回は石田九段の手ほどきを受け、明大和泉の大学将棋クラブにも練習に通う。昨年は高校生の関東大会で優勝、高校竜王戦で準優勝するなどその実力は折り紙つきだ。「将棋はあくまでも趣味としてこれからも続け、いずれはアマとして頂点を目指したい。」と力強く語った。

川口明高会

歴代会長

今年度設立20周年行事予定。

初代	大熊 康浩	昭和29年卒
2代	目良 昇	昭和31年卒
3代	久松 勇	昭和33年卒
4代	天野 洋一	昭和35年卒
5代	荻野 布昌	昭和40年卒
6代	石井 次男	昭和43年卒
7代	由本 俊昭	昭和45年卒

事務局

048(294)3780
石井 君忠 昭和57年卒
会員数 160名

明治高校

フェンシング部 OB会

42年卒	伊藤 秀文
42年卒	石神 修司
43年卒	片岡 正美
45年卒	中村 信也
45年卒	小林 清蔵
45年卒	玉本 幸三
46年卒	田中 信明
46年卒	森 暁二郎
47年卒	白鳥 敏之
47年卒	皆川 鐵也

祝総明会第35回総会

昭和44年明治高校入学
スキー部OB会一同

石原 朗
岩本 明男
金子 正弘
加茂 美一
小泉 信也
佐久間 安光
戸張 毅
判 澤 勉
深江 英之
星 邦夫
山縣 清

明 雪 会

明治高校中学スキー部OB会

祝 スキー部インターハイ・国体・関東大会連続出場。明雪会は現役スキー部を出来る限りバックアップしています。

会 長

若松 弘昌 昭和39年卒

副会長

米山 廣昭 昭和40年卒

堀 真寿 昭和46年卒

名誉顧問

水落 八郎

顧問

大津富士男 昭和28年卒

佐藤 健一 昭和31年卒

顧問先生

笹倉 康夫

西村 英之

浦田 敏則

土岐 明利

幹 事

大出 育男 昭和31年卒

田村 暢朗 昭和31年卒

山田 和孝 昭和36年卒

井上 進治 昭和38年卒

山本 一雄 昭和41年卒

塙 直樹 昭和46年卒

服部 憲一 昭和50年卒

事務局

五十嵐公一 昭和54年卒

伊藤 真之 平成3年卒

八丈富士に白雲がなびいていた 明治大学八丈島高等学校

私達が過去、学び育った明治高校（以下駿台明高）と同じ明治大学の付属高校が戦後のわずかな期間、存在していた。

男女共学・定時制がある事以外ほとんど同じ教育方針をもった高校であり唯一異なるのは、南に二九〇km離れ黒潮に浮かぶ八丈島にあったという事である。

この高校は「明治大学八丈島高等学校」（以下明八校）と言い、今でも当時を知る島民の間では「メイコウ」と親しまれている。校歌も「白雲なびく駿河台……」であり、校章も本校と全く同じ（写真）。しかも明八校のあった場所（現在は八丈島病院と勤労福祉会館）は卒業生の一部では「八丈駿河台」として呼ばれている所である。何故、人口一万に満たない島に明治大学の付属校があったのかそして、僅か五年間で閉校してしまったのか探ってみる事にした。

終戦後、伊豆大島とのライバル意識もあり子息の教育環境を整えたい島民の宿願である新生高校の論議がくり返されるようになった。昭和二十三年、大賀郷村の公会堂を仮校舎として都立園芸高校の分校（のちの都立八丈島高等学校）が九月に開校された。

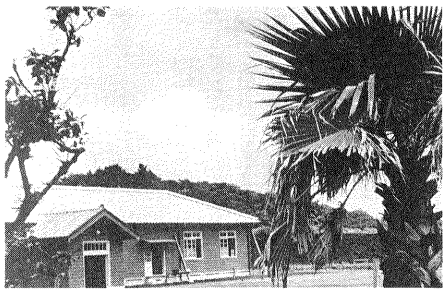
その後、各村議会において正式な分校の敷地の選定が議題になり候補地として三ヶ所が提案された（大賀郷大里・中道・元海軍受信所跡）。最終的に三根村の推す中道、大賀郷村の推す無線局跡の二ヶ所に絞られた。商業・漁業の盛んな三根村と、役場・裁判所などがある大賀郷村では何かにつけ競争意識が存在していた。

誘致問題で島内を二分する紛争は、両村独自で二つの高校を建築し、東京都に寄付を申し出たという激しい対立にまで発展した。

翌年（昭和二十四年）、東京都教育委員会が無線局跡に決定したこと、憤慨した三根村住民は独自で私立高校の設置を誘致することに決めたのである。

前三根村村長、山口喜与吉氏の次男、耕三氏が明治大学の出身であったため当時、明大の最高決議機関である商議員会を動かした結果、専務理事、双川喜一氏らの賛同を得る事に成功した（実は、この時期早稲田大学にも誘致の依頼をしたが早稲田は乗り気でなかった）。当時の明大総長鶴澤総明先生は、民主化の根底は教育の民主化にあると民主主義教育に熱意をもっておられた。そして「文化的・科学的な教育制度を浸透させること」によって産業文化は教育優先の歴史的必然性にせまられている。」と設置理由を述べられている。

その結果、昭和二十五年に八丈富士の裾野にある三根村中道に、明治大学八丈島高校は記念



昭和29年頃の校舎とグラウンド

すべき第一歩を歩み出した。南海タイムズ（当時の島内唯一の新聞）四八七号に次のように記されている。「三根は質実雄渾の学風を以て七十年の建学の歴史を有し、私学の最高峰を自負する明治大学の八丈島高等学校を夫々一挙に獲得、これにより本島教育文化に花々しい飛躍が約束されるに至った。」

八丈富士を北西に望む敷地に一万坪、一四三坪の平屋の校舎（写真）に一学年八十名、二年八十名、三年若干名の募集が行なわれ、三根村の子弟は全員、園芸高校より転入した。初



現在の明八校跡地周辺

代校長は大橋留治先生（駿台明高と兼務）、以下十二名の教員により、普通科・夜間の共学として始まった。教員の中には、森田半右衛門（イリノイ州立大卒）の英語科、榊原鏡止（東大名誉教授）の数学科などレベルの高い教師陣が着任していたのが特徴である。また、定時制は中元郷小学校の教室を借用した。実際は、大橋校長ではなく当初より明大法学部を卒業し、陸軍中野学校の教官主事であった良田喜久男校長（三十二年より駿台明高校長）が閉校まで務めていた。



紫紺の団旗

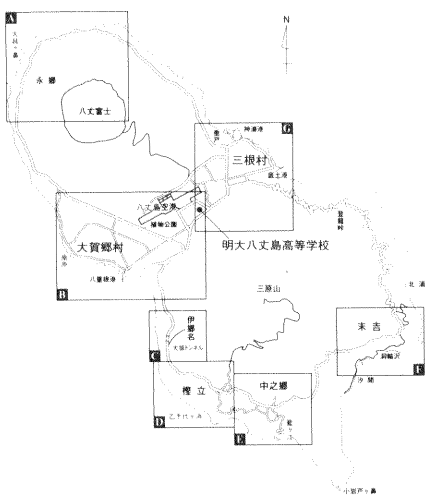
順調な開校にみえたがその実、三根村に対する負担は相当なものであった。明大との契約内容において、土地建物等は永久無償であり経営上の赤字は全て村が補償する事になっていた。都立高校の授業料程度の収入では、学校経営も非常に困難極まりないことは言うまでもないことであろう。

ともあれ明八高は年々、着実に生徒を増やし軌道に乗った。その後、分校から独立校となった都立八丈島高校とスポーツの交流も盛んに行なわれるようになった。特に野球では島の早慶戦として島民に親しまれていた。当時を知る卒業生に聞くと、紫紺の団旗（2m×1.5m）を振りかざし男女の生徒が白雲なびく駿河台を合唱し、白熱した対戦が行われ、そしてその結果は南海タイムズを通して全島に報道され、島民は一喜一憂していたとのことである。

二十七年から閉校になる三年間明八校で教鞭をとられ、駿台明高の教師であられた釜屋正誠先生からも当時の状況を聞くことができた。「私は坂上（末吉村）分校の夜間高校へも教えに行っていた。天候の良い時は月明りだけでも山道を通れたが、悪天候の時は知人の民家に泊めさせてもらわなければならなかった。この島の人は人情が厚く、治安が良いので錠をかける必要がない。授業では生徒達の素直な性格と、南国特有の明るさが楽しく行なう事ができた。夜になると島の電力（水力



今も明大編纂室倉庫に眠る銅版の校名札



発電）がストップされるので生徒の中には月明かりの下で勉強をしていた子供達もいたようであった。」

釜屋先生は明大時代にマンドリンクラブにおいて活躍されていたので、同クラブを度々クラブの夏合宿地として招いた。そして練習の合間と余暇を利用して各村巡回演奏会を開催した。総勢二十九名の演奏者による豪華なメンバーで、のど自慢大会等も含めた楽しい演奏会であったというのである。

ともあれ、平屋の校舎を一株増築し、着々と基礎を整えつつあった明八校だったが、当初からの赤字累積などの財政難に直面することになる。また、三根村と大賀郷の融和もしだいに進み、分校であった園芸高校が都立高校の独立校となったことから、負担のかかる明八高は昭和三十年、町村合併を契機に幕をとじる事となった。

昭和四十六年卒
マグル専門
足立市場米金
橋本和彦
〒一〇〇〇三八
足立区千住橋戸五〇
TEL 三八七九二六五六
FAX 三八七九一八七六

その中には明大に進学した方、あるいは島内の八丈支庁をはじめ各官庁、役場などで活躍されていた方が多勢いらっしゃる。

短期間の存在であったが、明八校は島民の方々にとって今なお鮮明に記憶に残っているのを実感した。今回、私は明八校の卒業生と地元の方々とともに「こ」注といふ郷土料理店での酒宴に参加させていただく事ができた。初対面でしたが、話す事は滞る事を知らず、総明会の先輩方と会話してはいるようにすら感じてしまった。酒宴の中の度重なる「メイコウ」の呼び名を耳にする「錯覚と混乱を覚え、酒の「黄八丈」がさらに拍車をかけるのだった。

— 樋山先生を囲む会 —
さんま会
生物部OB会
代表幹事 内海賢治
(昭和46年卒)
毎年、3月末（さんま）の土曜日にさんま会を開催します。奮ってご参加を

昭和45年卒 庭球部OB一同
上野 隆史
熊倉 恒夫
鈴木 一雄
高梨 忠義
中島 敬一
林 良行
吉田 繁夫
米長 博

祝 総明会第35回総会
明高バスケット部
OB会
会長 古川具弘

明高庭球部OB会
会長 荒井重雄（昭和28年卒）
TEL 03(3666)7527
連絡先幹事 鈴木信夫（昭和47年卒）
TEL 03(3886)5884
春のOB会ゴルフコンペは毎年6月第一日曜日に行うことになりました。秋のホッケー杯と共にふるって御参加ください。

眠る校旗を探す



笹本直衛町長 久しぶりに校旗と対面

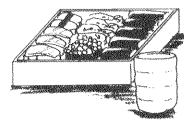
最初に訪ねたのは大賀郷村にある民族資料館だった。館長に旗の行方をたずねると三根村で御商売をされ明八高の御出身である藤巻氏を紹介して下さいました。

で、今回この旗を見るのは卒業以来との事であり、約半世紀前の青春を思い出されているように感じられた。そして、この旗は今後、郷土民族資料館において保管していきたいとの事であった。

郷土料理店「でこでこ」

(現地語で「来て下さい」の意)店主の喜田光利氏は明大政経卒で、きさくな奥様と営業されている。料理は、割り箸と皿とビール以外は全て八丈産であり、有名な洋がらしの島寿司など、ここならではの新鮮な料理を出してくれる。おすめは健康に良く、悪酔いをしない。あしたばハイと「黄八丈」。八丈島へ行かれる折は是非お立ち下さい。

住所 三根村一五七二
電話 04996 22046
文責 並木 清志



第35回総明会

御寄付者一覧

金十万円

・西新井大師門前
割烹中田屋
中田 貢弘 (37年卒)
一志会

金七万五千円

・男坂クラブ
44年卒業生一同

金六万円

・バレー部OB会一同

金五万円

・明治大学野球部
総監督
別府 隆彦 (18年卒)
・(株)東京フジカラー
代表取締役
山浦 晟暉 (29年卒)
44年入学スキー部
有志一同
47年卒新聞班

金三万五千円

・硬式野球部
「一八会」

金三万円

・第一電装(株)
比留間竹郎 (45年卒)
・北島産業(有)
北島 一弘 (45年卒)

金二万五千円

・明 駿 会
お座敷天ぷら「花長」
本多 由明 (36年卒)

金十二万円

・47年卒テニス部有志一同
金宮 秀王 鈴木 信夫
竹川 茂 田中 登
土屋敬一郎 室山 博明

金一万五千円

・明 球 会
歴史研究部OB会

金一万円

・出沼 正(曾大兄)・金井靖男(白駿会)
・山田伸夫(明高教諭・猿楽会26年卒)
・荒井重雄(28年卒)・天野謙博(30年卒)
・佐藤健一(31年卒)・大出育男(31年卒)
・浪越和民(32年卒)・内田正昭(36年卒)
・稲田俊秀(37年卒)・高村光昭(37年卒)
・土生崇智(37年卒)・浅古峯男(38年卒)
・池田高征(38年卒)・高木正之(38年卒)
・浜名邦男(38年卒)・渡辺昭宏(38年卒)
・海田耀市(39年卒)・加藤一也(39年卒)
・佐藤 仁(39年卒)・篠原弘治(39年卒)
・谷 慈義(39年卒)・川島和雄(39年卒)
・鈴木和夫(40年卒)・茅野浩明(40年卒)
・望月義宣(40年卒)・亀井 肇(41年卒)
・工藤健次(41年卒)・高橋正浩(41年卒)
・名倉 昇(41年卒)・町田菊男(42年卒)
・生徒会紫紺クラブ・高村守利(43年卒)
・中村義克(43年卒)・細谷日出男(43年卒)
・市川牧男(44年卒)・神林孝一(44年卒)
・諏訪勝成(44年卒)・染井政二(44年卒)
・鶴田 昇(44年卒)・三上嗣治(44年卒)
・家中 勉(44年卒)・薬谷 豊(44年卒)
・高橋 功(45年卒)・中村裕次(45年卒)
・橋本憲一(45年卒)・松川芳久(45年卒)
・茂木正男(45年卒)・山形英明(45年卒)
・吉田耕太郎(45年卒)・由本俊昭(45年卒)
・岡田 弘(46年卒)・菊池 満(46年卒)
・木村 茂(46年卒)・齊藤公義(46年卒)
・杉澤正利(46年卒)・堀 直樹(46年卒)
・堀 真寿(46年卒)・47年卒化学部・同

金五千円

・高橋 信夫(25年卒)
・東京文具紙製品二世会
・平沼 孝之(45年卒)
・47年卒マンドリンクラブ一同

ありがとうございます。
ごぞいました。

昭和四十四年卒(マンドリン倶楽部)
肉の田じま

田 島 実

江東区扇橋一四一
TEL 三六四七二九八四
FAX 三六九九一七二二九

美津和食品有限会社

菊池 博道
四一年卒

菊池 満
四六年卒

昭和41年3月卒同期会

41 明 友 会

連絡先 菊池博道 (M委員会委員長)

〒110-0004 台東区下谷3-4-5
TEL 3872-5427 FAX 3871-8388

祝 第35回総明会
応援団OB47年卒

羽生 光宏
加藤 直樹
皿井 啓之
梅田 昇一
廣野 宏士

祝 第35回総明会
化学部OB47年卒

蒲原 敏彦
佐藤 誠二
寺田 勝治
松田 芳弘

47年卒マンドリン倶楽部OB

梶村 清司
日下 栄作
塩野崎和夫
豊永 勝義
植草 誠
木村 勇

祝 第35回総明会
47年卒柔道部OB一同

葉山 雄大
浜 佳明
齊藤 充弘
田中 康二
小野瀬雅幸
川名 正幸
森 優

文学散歩 神田界隈の歴史再発見

駿河台・猿楽町及びその界隈について書いてみようと思う。

とは云っても、石器時代・縄文時代から始める訳にもいかないし、又、その様なアカデミックな知識もない。第一、その頃は、駿河台、猿楽町といった地名さえ存在しなかった。まずは、この地域の名称である神田の由来あたりから始めるのが無難な様な気がする。

【神田】
そもそも、何だ神田と云うが、何故神田か。神田とは、『江戸紀聞』に、「上古は神田とて一國にあまたの田地をそなへて、大神宮の神供となせり、此地も即ち其の處なり」とあり、(伊勢)皇大神宮に新稲を奉納する御料地から、この地名が生まれたといわれている。

【神田】

では、ものほついで、ここで、猿楽町及びその周辺の地名の由来を列挙しておこう。

【猿楽町】

江戸期の表猿楽町・裏猿楽町の総称。慶長年間の一時期、能楽師観世大夫の屋敷があったことにちなみ、俗に「エテガク町」ともいわれた。(此様に説明されると、「我われは、かつて、エテガク町にいたエテ公だったのか。」とも思えてきて、妙に納得できる様な気がする。)

【駿河台】

江戸期からの汎称地名。元は神田台と称したが、徳川家康が駿府城で亡くなった後、駿府詰の旗本衆(駿河衆)の多くが移住したことにより駿河台と汎称されるようになった。

【神保町】

幕臣の神保長治邸より由来。明治初期には、表神保町・裏神保町・北神保町・南神保町があった。

【三崎町】

三崎神社より由来。三崎神社は鎌倉時代創建といわれる古社。尚、この三崎は岬よりきており、かつてこの地域が海岸に接し、岬に神社が設けられたと考えられている。

【西神田】

昭和九年、表猿楽町・中猿楽町・西小川町・今小路・飯田町の各一部を統合し成立した。

【小川町】

太田道灌の歌、「武蔵野の小川の清水絶えもせず岸の根笹を洗ひけるかな」にある様に、清水が小川のように流れていたことから、これにちなんで、明治五年、この町名となった。

【御茶ノ水】

かつて順天堂病院あたりにあった高林寺の境内に名水が湧き、二代將軍秀忠が鷹狩りの帰りに立ち寄りお茶を飲んだ。それ以来、將軍家御用のお茶用に献上されたのが由来と言われている。寛文元年(一六六一)、舟運水利のための拡張工事の際、川底に没し、現在ではその地名・駅名を残すのみとなった。

JR御茶ノ水駅を出ると、線路沿いの神田川は溪谷風の景観をなしている。対岸を湯島台、こちら側を駿河台と云うが、もとは神田山と呼ばれていた一続きの丘陵であった。



明治24年当時の駿河台周辺

慶長八年(一六〇三) 征夷大將軍となった徳川家康は、この神田山の南斜面を切り崩し、豊島洲崎を埋め立てて、日本橋・京橋など浜町より南に市街地を造成した。

元和二年(一六六一)に小石川・江戸川の治水対策と、江戸城北部の防備強化の為、平川の三崎町と九段中坂下を閉塞した。その後、三崎橋から駿河台を割り切って、御茶ノ水から柳橋を経て隅田川まで、運河としての神田川を開削した(完成は一六六一年)。この結果、神田山は北側の湯島台と南側の駿河台に完全に切り離された。

聖橋

本郷通りの南北、駿河台と湯島台を繋いでいるのが聖橋である。この橋は昭和二年(一九二七)、関東大震災後の復興計画の一環として完成した。長さ九二メートル、幅二二メートルの鉄骨鉄筋コンクリート造り。設計者は、当時の気鋭の建築家、山田守である。聖橋という命名は、江戸の聖堂、湯島聖堂と明治の聖堂、ニコライ堂を結ぶと

云う意味で、一般公募による。なかなか洒落たネーミングである。

ニコライ堂

本郷通りを小川町の方へ下って行くと、右側にニコライ堂がある(入り口は紅梅坂を上ったところ)。

ニコライ堂は、正式名称を日本ハリストス正教会教団復活大聖堂と云い、ロシア正教大主教ニコライの企画により、ミハイールポフの設計をもとに、明治十七年(一八八四)三月から同二十四年(一九一四)二月にわたって建築された。実際には、工事監督の英国人建築家ジョサイア・コンドルによってシチュールボフの設計に手が加えられたという。

大正十二年(一九二三)の関東大震災によって主要部分が崩壊。岡田信一郎の設計により、昭和二年(一九二七)より二年間、復興工事が行なわれ、内部に変更が加えられたが、窓枠以外の壁面は、ほぼ明治当時の形式を残していると云われている。

大正十二年(一九二三)の関東大震災によって主要部分が崩壊。岡田信一郎の設計により、昭和二年(一九二七)より二年間、復興工事が行なわれ、内部に変更が加えられたが、窓枠以外の壁面は、ほぼ明治当時の形式を残していると云われている。

る。聖堂の高さ三五メートル、壁厚一メートル、建坪一〇五〇平方メートルの日本最大級のビザンチン様式建築物である。尚、聖堂内の見学は、火土曜日午後一時〜四時、当日直接事務局へとの事(聖堂内の写真撮影は禁止)。

小栗上野介忠順

明大通りに出て坂を下り、主婦の友社の北側、東京YWCA辺りには、幕末の天才的官僚、小栗上野介忠順の屋敷(面積九七〇坪)があった。小栗家は三河武士の正系で二五〇〇石を領し、采地は上州群馬郡権田村だが、忠順は駿河台のこの屋敷で生まれている。安政六年(一八五九)、三三歳の時、幕府が日米修好通商条約の批准のためワシントンに使節を派遣するに際し、小栗忠順は監察目付役に抜擢された。このアメリカ出張の経験から、より開明的な革新官僚に成長した。帰国後、外国奉行、勘定奉行、歩兵奉行、南町奉行、陸軍奉行、軍鑑奉行、海軍奉行を歴任、勘定奉行にいたっては、任命・罷免の四度数を数えている。この為、「またまた小栗様のお役替え」という言葉がその頃はやっとなった。その性格は執拗・剛腹で、典型的な意地張りであったといわれている。鳥羽・伏見の戦の後、小栗は強硬に主戦論を主張した。江戸

城で、慶喜が恭順に傾くのを喰いとめようとして、小栗は慶喜が立つて奥に引込もうとするその袴の裾を掴んで直言した。慶喜は怒って即座に罷免を申渡した。幕政二六〇余年で、將軍の直語をもつて鹹になったのは小栗上野介唯一人であったといわれている。慶応四年(一八六八)二月末、小栗は駿河台の邸を引き払って上州権田村に引退した。そんな彼を薩長軍は一度の取調べもしないまま斬首に処した(同年四月)。鳥川の河原に引き出された彼の最後の言葉は「お静かに」であったという。数えて四二歳であった。

神保町書店街

明大通りを下ると駿河台下である。この右手方向が神田神保町の書店街である。この一帯が書店街として大発展をとげたのは、学生街であり、第一次大戦後の高等専門教育の発展、とくに神田にある私立大学の拡張により、大学生が増加したこと等による。

この神保町一帯を中心とする書店街の規模は、その集中度、それを取りまく出版関係の同業者の拡がり等、世界に例をみないといわれている。出版印刷製本流通小売顧客古書店顧客という流れが、この街に居ると実感できる。



お茶ノ水のシンボルニコライ堂

神保町を救った 漱石門下生

今の神保町を語る上で、忘れてならないことは、この町が、太平洋戦争の時、アメリカ軍の空襲から免れたということである。

このことに関して、夏目漱石の門下生だった白系ロシア人、セルゲイ・グリゴリヴィッチ・エリセーエフ(一八八九〜一九七五)の逸話がある。

倉田保雄氏の『エリセーエフの生涯』(中公新書)によると、彼は帝政ロシア時代のペテルブルクに生まれ、ベルリン大学で日本語を学んだ後、二〇歳の時、明治四十一年(一九〇八)に来日。東京帝国大学文科に入学、大学院終了までの六年間、東京に滞在。日本語は勿論、古典文学から現代文学、寄席・相撲・歌舞伎を好み、その洒落ぶりは日本人以上であったという。このエリセーエフが漱石文学にすっかり傾倒し、何度か漱石山房を訪ねている。その最初の訪問は、明治四十二年六月二十四日付の漱石の日記にもある「夜。エリセーエフ・東・小宮・安倍能成、来る。エリセーエフは露人なり。日本語の研究のために大学の講義をきく由。『三四郎』を持って来て何か書いてくれという。(平岡敏雄編『漱石日記』岩波文庫)。

彼は、ロシア革命後に亡命、後にパリで日本学を確立、さらに昭和九年(一九三四)、アメリカのハーバート大学に招かれる。ライシャワー博士は彼の門下生だった。その後、太平洋戦争が勃発。やがて、日本本土への空襲が始まるが、エリセーエフがマックアーサー將軍に進言して、神保町を目標から除外するように忠告したといわれている。エリセーエフ自身が確認したことではないが、倉田氏も書いているが、フランスの日本学者のあいだでは常識のようになっているという。



錦華小学校わきにある石碑
「吾輩は猫である」の名前は、まだ無い、と記されている

夏目漱石と神田界隈

JR水道橋駅から白山通りを渡り、明治高校の方へ向うと右側にアテネ・フランセがある。この辺に夏目漱石が、明治十六(一八八三)年四月、大学予備門受験のため通った予備校、成立学舎があった。

一体に、猿楽町・駿河台周辺には漱石ゆかりの地が多い。年代順にあげると、明治十一年(一八七八)十月に卒業した猿楽町の錦華小学校(現・御茶の水小学校)を始め、

同十二年(一八七九)三月、神田神保町の東京府第一中学校に入学。

同十四年(一八八一)春、第一中学を中退。麹町の漢学塾二松学舎に入学。

同十六年(一八八三)七月、上記の成立学舎に入学し英語を学ぶ。

同十七年(一八八四)九月、現・神田錦町の東京大学予備門予科に入学。猿楽町の末富屋に友人一〇名程とともに下宿。

同二十四年(一八九一)トラホーム治療の為、通院中の駿河台の井上眼科病院(ニコライ堂隣)で「背のすらくとした細面の美しい女」に心を惹かれる。

同三十七年(一九〇四)九月、同三十九年(一九〇六)十一月、明治大学で講師を務める。

大正元年(一九一三)九月二十六日、神田錦町の佐藤診療所に入院して痔の手術を受ける。十月二日退院。

(年表は半藤一利編『夏目漱石 青春の旅』文春文庫にもとづいて作成)

以上のような漱石の生活上の体験は、彼の作品の中にもしばしば登場する。主なものでも、『坊っちゃん』の物理学校(現・東京理科大学で当時は神田小川町にあった)、『彼岸過迄』の一章「停留所」(小川町の市電停留所)他、小川町近辺等。

『明暗』の主人公津田の持の手術は前記の佐藤診療所での自らの体験を念頭に書いて書いたものと思えない。圧巻は、『満韓ところどころ』である。満州・韓国旅行の紀行文であるにも拘らず、駿河台の成立学舎のこと、猿楽町の下宿末富屋のことが数ページ(一三、四、二二を参照)にわたって述べられている。

その他、猿楽町界隈ゆかりの文学者として、中遠楽町の二葉亭四述(一八六四―一九〇九)、猿楽町生まれの俳人・産婦人科医の水原秋桜子(一八九二―一九八〇)、同町生まれの明大教授・文芸評論家の小林秀雄(一九〇二―一九八三)、同町生まれ錦華小学校卒業の作家永井龍男(一九〇四―一九九〇)がいる。永井龍男の『東京の横丁』(講談社)には、明治末期から大正末期にかけての、この界隈の生活風景が大変繊細なタッチで描かれている。

文化人に好まれた 駿台荘

駿台荘

アウンサン・スーチー

将軍が潜伏

アテネ・フランセから明高に向う女坂のところに、かつて(多分昭和四十八年頃迄)駿台荘という旅館があった。この旅館については、脚本家大石静さんの『駿台荘物語』(文春文庫)に詳しく書かれている。以下はもっぱらこの好著にもとづいて書く。

この駿台荘の御客様はその九割が、出版社などから執筆を依頼された作家と、その担当編集者であった。ここでは、その方がたを順不同・敬称略で列挙するにとどめる。即ち、江戸川乱歩・武田泰淳・高見順・石川達三・吉川英治・檀一雄・柴田錬三郎・五味康祐・松本清張・五味川純平・北條秀司・平野謙・高橋和巳・三好達治・開高健など。学者は京大関係者が多く、貝塚茂樹、湯川秀樹、桑原武夫ら。異色の方では、ビルマ(現・ミャンマー)建国の父、アウン・サン将軍(アウン・サン・スーチーさんの御父上)が、昭和十五年同旅館で潜伏生活していた。

この駿台荘については、小林信彦氏の『回想の江戸川乱歩』(文春文庫)の中にも描かれている。小林氏がここに江戸川乱歩を訪ねた時のことである(昭和三十四年一月十日)。訪問中に来客があり、乱歩は小林氏に双眼鏡を渡し、「きみは、外でも眺めていてよ。」「冬だからね。あんまり、面白いものはないよ。」と言ったという。小林氏は、寒空の下の街に双眼鏡を向けたが、どの家にもカーテンがかかっている、まことに面白くなかった、と書いている。

男坂・女坂

ともに昭和八年の区画整理の際、猿楽町・駿河台を結ぶため、新しく作られた坂である。この坂は町会の人びとによって名付けられたが、富士を遠く望むことができたので「富士見坂」という意見も出たという。

明治中・高等学校

よく知らないので書けません。たとえ知っていたとしても書けません。指が裂けても書けません。皆様の御存知の通りです。

文責 南島 孝司

祝 総明会第35回総会

東京文具紙製品二世会有志

昭和34年卒	(株)ニイクラ	新倉清之
昭和34年卒	(株)松野	松野輝信
昭和36年卒	(株)太洋社	佐藤達二
昭和36年卒	一ツ橋ノート(株)	田中確正
昭和37年卒	中川紙業(株)	中川清勝
昭和41年卒	(株)山田屋	服部洋一
昭和44年卒	日野旭堂(株)	日野憲一
昭和47年卒	浅草荷札印刷(株)	谷郷敬二
昭和48年卒	(有)渡部商事	渡部秀樹
昭和49年卒	(株)トーヨー	眞下安弘
昭和55年卒	(株)高春堂	高木明裕

祝 第35回総明会総会

紫 讃 会

昭和43年同期会



女坂 右手マンション付近に駿台荘があった

祝 総明会第35回総会

明 水 会

明治中学・高等学校水泳部OB会

会 長 西 秋 忠 男 (昭和30年卒)

喫煙具のことならおまかせ下さい
名入れ、特注などなんでもご相談下さい。

LANCEL
Burberrys



バーバリーライター発売元
ランセルライター発売元
チルチルミチル関連商品発売元

その他各種喫煙具製造販売

東京パイプ株式会社

〒105-0013 東京都港区浜松町1-15-4

TEL 03-3436-1588 FAX 03-5473-0201

代表取締役 山本 静孝
(S45年卒)

E-mail: S_yama@topai.co.jp

ナガレモン ライセンス募集!! バカモン
当社オリジナルキャラクター
世紀末に現れたちょっと厄介なモンスター
ニセモン
©1999 SAKAMOTO STATIONERY KODANSHA
仲間はまだまだいっぱいいるぜ。
オチヨウシモン みちゅー! オヤフコウモン
講談社コミックボンボン好評連載中!!
ニセモンの他、携帯電話関連グッズ・キーホルダーなどのファンシー雑貨、アクションボールペンなどのおもしろ文具の製造発売



製造発売元
坂本文具株式会社

本社 〒111-0032 東京都台東区浅草3-25-9
TEL: 03(3876)1331~5
FAX: 03(3872)4631

代表取締役 坂本 充章
(昭和42年卒)

常務取締役 坂本 雅宣
(昭和54年卒)

E-mail: info@sakamoto-bungu.co.jp HomePage: http://www.sakamoto-bungu.co.jp

見えないホスト 野村和美

昭和46年卒
前野 重雄



この慶びの宴にお集まり下さった皆さまのすぐ隣に、いや頭の上にひとりの男がそっと寄り添っていることを申し上げておきたい。姿こそ透き通って、見えない男。「野村和美」、誰よりも友に譲り、後輩には尊大にふるまうことなく、また先輩が云えば「カラスを白い」とする身長一六〇センチそこそこの男。しかし気骨の人だった。ただ、ひとたび酒を呑むと人格は豹変し、間違っている者がいればいかなる相手であろうとケンカを売るので同窓の四七年卒の連中には、そんな意味でもけして忘れることのできない存在でもあった。

武勇伝の中には野村の方が《間違っ》ていて、女子プロレス草分けの小畑チヨさんまでにこの小兵は腕をまくって突撃をしていったのだから想い出して恐ろしい。その反面、野村は《一志会》という明高の同窓生を中心にして、離ればなれにならぬよう集まっておこうという趣旨で、あちこちの有志に声を掛け組織化してきた。何よりも強調しておきたいのはこの男の行動には何の名誉欲も、金銭欲もない。ひたすら「仲間と顔を合わせていたい」この気持ちだけで何の邪念もなかった。

彼がこうして残した《一志会》の面々は多くのことをこの野村の《博愛》ともいえる姿勢から学びこんだことがある。大学卒業後二〇年にわたりその《一志会》は今も毎月一回は

顔を合わせ続け、今回の総明会実行委員会の一翼を担わせて戴いた。

九一年、ひと様の事ばかりに身をすり減らしてきた野村和美は、クモ膜下出血により三七歳の生命を奥さんの純代さんに包まれて、閉じた。まるで少年のように短くも、澄んだ生涯にボクらは立ち合った。

私見になるが、ボクにとって明高中は何だったんだ？と考えた。教壇から：よりも、むしろ生徒の仲間から学んだ事の方がはるか多かつたように思えてならない。

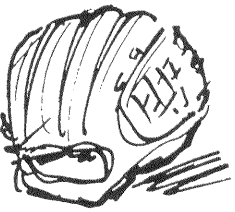
生徒間の団結の堅さは伝統的だけれども、こうして学友に教えられ、学んできたのではなかったか。野村とは、そうした典型的な《明治男》であったのだ、長じて最近、初めて気が付いた。

あなたの隣に立っている野村はきつと喜色満面でしょう。今日という日をこんなに喜んでくれている者はおられません。すぐにあなたの中に潜む《明治男》氣質がゆつくりとシンクロしてくるはずですよ。仲間の為にもどうかご献杯を！

◎前野重雄氏プロフィール

昭和四十三年、明治高校入学。ハワイ州立大学言論学部修了。

滞米期間中、記者として活躍、帰国後、荒川区においてスポーツ関連のコレクターアイテムを販売する「流体力学」を開店。昨今ではテレビ東京「何でも鑑定団」に出演。コレクター歴三十五年、鑑定歴十二年。現在、ジャーナリストとしても活躍中。



第6回 総明会ゴルフ大会 開催決定

第5回大会は、4月4日(日)に開催されました。当日は35組の参加を頂き華やかに挙行されました。これも皆様のお陰です。

総明会の二大行事の一つとして、年を追う毎に充実しています。『総明会ゴルフ大会』に参加することによって、普段会えない先輩や久しぶりの同級生とバカを言い合いながら一日楽しく過ごせます。仕事のストレスは『総明会ゴルフ大会』で吹き飛ばしましょう！今まで参加していない会員の参加を切に望みます。毎回参加を頂いている会員の方、次回もよろしくお願い致します。

さて、第6回の開催ですが、下記のように決まりました。決定にあたり、御協力頂いた諸先輩方には、心より感謝致します。

- 日時 平成12年3月25日(土)
- 場所 スプリングフィズゴルフクラブ
茨城県真壁郡協和町大字小栗字浦山6588
TEL 0296-57-9811
* 貸切になります。
- 会費 27,000円(予定)含む プレー費・パーティー費・賞品代
* 昼食代・個人の用品代は各自負担になります。
- 募集組数 40~45組
- 内容 学年対抗・クラブ対抗・個人戦(新ペリア方式にて順位決定)
- 案内発送 平成12年1月初旬予定
- コース状況 林間コース。コース内に10個の池が点在し、この池の攻略がスコアメイクのポイントとなる。ティ前やフェアウェイサイド、グリーン横や奥の池が美しく、晴れた日には一幅の絵になりますがコースは難易度が高く油断が出来ません。フェアウェイは中央あたりはフラットだが両サイドは微妙なうねりがあります。左右に落ちる都度、ボールのライが変わります。是非、チャレンジしてください。

※案内書発送に際して※

まだ、先のことでありますので予定はたてにくいと思います。とりあえず、案内書の送付を希望する方はFAXかメールで下記に連絡してください。お問い合わせ等も左記をお願い致します。

ゴルフ委員会より 《お知らせ》

第五回チャリティー

ゴルフ大会

春というのに肌寒さの感じる朝一四〇名の参加者は筑波学園ゴルフ倶楽部に続々とつめかけ

はじめての出会いや久しぶりの友人との再会、緊張と感動の中ティショットは放たれ、総明会チャリティーゴルフ大会の幕開けだ。

S18年卒の別府先生をはじめ、大先輩からH5年卒の若手会員さらにはPTA、先生方までが一同に会し、日頃鍛えたゴルフの腕前を競い合うのは壮大な文化の香りがする。筑波山をはじめ大自然に生まれ、コースから見渡せる田園風景は心を和ませるのか、打ち

解けた雰囲気ゴルフを楽しむ姿が随所にみられた。競技はペリア方式で個人、学年対抗、クラブ対抗の形で争われた。

個人戦はグロス七十で四十六年卒の齊藤公義氏が優勝。クラブ対抗はベテランゴルフファアのそろった水泳部がテニス部をおさえて優勝。学年対抗は二位に三チームが並ぶなど大激戦ぞんな中、四十一年卒の三連覇を阻止したのは幹事学年の四十七年卒、チームワークで攻めのゴルフを展開、ニアピン、ドラコンも獲得するなど健闘が光った。

フェアウェイの景色が夕日に写しだされる頃、校歌がクラブハウスに響きわたり、五回目を迎えたゴルフ大会は盛会のうちに、幕を閉じた。

第五回総明会

ゴルフ大会成績発表

当日は好天に恵まれ、多少寒かったものの良いコンディションの中でプレーが出来ました。スタッフとして四十七年卒の「四七四七同志酔会」の全面的協力により、滞り無く終了致しました。関係各位に心より御礼申し上げます。

ゴルフ委員会
委員長 阿部正行
FAX 03(3891)7370
アドレス
masabee@mb.infoweb.ne.jp
副委員長 北島一弘
FAX 03(3879)6133
アドレス
k2@kitajima-s.co.jp

団体戦・クラブ別

順位	OB会名
優勝	明雪会
準優勝	スキー部
3位	庭球部OB会
	庭球部
	清水会
	中学野球部

個人戦

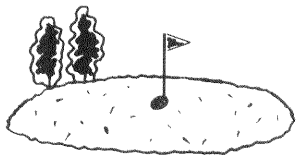
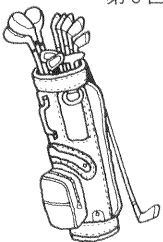
順位	所属	氏名	アウト	イン	GROSS	NET
優勝	46	斉藤 公義	45	43	88	70.0
準優勝	43	小田嶋保男	49	40	89	71.0
3位	36	杉田 成豊	38	38	76	71.2

団体戦・学年別

順位	所属	氏名	アウト	イン	GROSS	NET
優勝	47	浦原 敏彦	45	43	88	71.2
		田中 登	43	37	80	71.6
		古川 明男	48	43	91	73.0
		桜井 吏	44	45	89	73.4
		計			289.2	
準優勝	36	杉田 成豊	38	38	76	71.2
		増山 皓宣	46	37	83	72.2
		山田 和孝	41	44	85	75.4
		岡崎 正雄	43	45	88	76.0
		計			294.8	
3位	41	佐藤 正見	40	39	79	71.8
		岩崎 孝雄	41	42	83	72.2
		橋 知紀	41	38	79	74.2
		矢野 博	42	49	91	76.6
		計			294.8	
3位	43	小田嶋保男	49	40	89	71.0
		中尾 恵則	43	44	87	73.8
		金原 常隆	45	50	95	74.6
		山内 敏久	49	48	97	75.4
		計			294.8	
B G	40	茅野 浩昭	37	38	75	



第5回ゴルフ大会 準優勝の方々と会長



太田区立郷土博物館を訪ねて

昭和47年卒 学芸員 清水 久男



大田区立郷土博物館は昭和五十四年十一月に大田区南馬込にオープンした。開館当初から考古学担当学芸員として勤務する清水久男君を訪ね、博物館や学芸員について話を聞いた。

大田区は市内でも遺跡、遺物が豊富な地域として知られ、中でも東京湾で江戸中期から始まった海苔生産の歴史や道具が展示されているが、海苔生産道具は平成五年に国の「重要有形民俗文化財」に指定されている。また大正末から昭和初期にかけて多くの文士や芸術家が馬込に移り住むようになり、後に「馬込文士村」と呼ばれるようになる。この文士たちの作品や自筆原稿も多く展示されている。

大田区立郷土博物館は、大森貝塚を発見したモリス博士が館長をつとめたことのあるアメリカ最古の博物館ビーボデー博物館と姉妹館提携を結び活発な交流を行なっている。

博物館は資料を単に展示しているだけでなく、それらを収集、保存し後世に伝えていくという役目がある。その中心となり活動するのが学芸員で、近年、学芸員の良否が博物館の活動を左右することが再認識され、高い専門的知識ばかりか、美的センスや幅広い教養も必要となってきた。

清水君は歴研のバッチにあって明中に入学したというエピソードをもち、考古学を専門に修士課程を卒業、学芸員の資格を取得して二十年になる。「私にとって歴研の存在する

明治に進学したことが人生の選択で最も意義のあることだった」と言う。

あなたも歴史のロマンを訪ねる小さな旅に出かけてみてはいかがですか。

入館無料 月曜休館
都営地下鉄浅草線
西馬込駅下車徒歩7分

母校、明高に想うこと

昭和47年卒

佐藤 誠二



東京に住む同期生の便りによると、校舎はだいぶ前に改築し、先生方も新旧交代して、明中高もやはり様変わりだと聞いている。時の流れからすれば当然の成り行きかもしれない。

ただ、職業柄、気になるのは風景、校舎といった外形ではなく、その中身、生活する母校の後輩達である。現在、私は大学で教鞭をとっているが、年々、依存心が強く社会性のない学生が増えてきた。挨拶や受け答え、食事のマナー、電話のかけ方、手紙の書き方、はては鉛筆の持ち方、箸の上げ下げといった社会生活を営む上での基本的動作ですら十分、身につけていない学生も少なくないのである。入試一辺倒の教育あるいは核家族化した家庭教育の弊害ゆえなのか、これは私の住む静岡だけの話でなく全国状況でもある。

明高のような付属高校の場合、試験勉強にあくせくすることなく、お仕着せでない自身の関心に応じた勉学やスポーツに主体的に取り組むことが可能である。少なくとも我々の時代はそうだった。また、クラブ活動・合宿、文化祭の準備などでは先輩後輩との集団生活を通じて

て対人関係、社会性を身につけることができた。家庭では味わえない集団のなかでの躰けも受けた。それら成長期の経験は、懐かしい思い出というだけでなく、大学、就職、結婚、子育てという人生の経路において大いに役立っている。勿論、集団生活で学ぶことは他の高校でも無い訳ではないだろうが、それが付属の私立高校の良さであり、明高はその良さを随分と持っていたと思う。そして、その良さを、風景の変わった校舎の中での今もなお、母校は持ち続けているのだろうか。

（静岡大学教授・静岡在住）

新聞班の思い出と近況

昭和47年卒

新里 泰孝



私の明治高時代は今振り返って見ると、実に多くのことを学びました。

どういった経緯か忘れましたが、新聞班に入りました。そこでは、広告取りに始まり、女子高訪問、運動会の写真撮影、学園ニュース記事や論説を書いたり印刷所に行つて、活字の組み版を見ながら校正もしました。古い建物の三階の部室で、班長の並木君を中心に編集会議（つまり昼食会）を持ちました。当時はベトナム戦争末期で、高二の時に「ソンミ虐殺事件」について署名入り論説を書いた記憶

があります。

顧問は石川一郎先生でした。先生のお宅に伺ったことがありますが、江戸時代の浮世絵や明治初期の素晴らしい錦絵を見せていただきました。

大学は一浪して早稲田大学政治経済学部に入りました。当時は新聞記者を希望していたと思います。

その後、経済学研究を目指すことになり、留年して、神戸大学大学院経済学研究科に入学。昭和五十七年から富山大学経済学部にも在籍しております。一九八九年九月から一年半、英国ケンブリッジ大学に留学しました。

近頃、国立大学は厳しい批判を受けています。四年後には「独立法人化」しそうです。少し私の研究を紹介させていただきます。現在の研究テーマは、マクロ経済学、情報処理と経済学教育、花井球根産業の国際比較の三本があります。

マクロ経済学では主に景気循環理論を研究しています。経済学教育では、本年十一月十三・十四日に富山大学で「経済学教育学会第一五回全国大会」を開催します。

花井球根産業の国際比較研究とは、富山はチューリップで有名なのですが、その球根の生産や貿易などについて花の国オランダと日本の産業構造・国際競争力を比較検討するものです。このテーマに関しては、本年七月・八月にハーグの農業経済研究所に短期留学します。

昨年の総明会会報によれば、明高は国立大学との併願を認めると清水校長は言っています。在校生諸君！、あるいは御子弟の諸君！、新天地を切り開きたい諸君。ぜひ一度富山大学の門を叩いてみてください。紙面が尽きましたので、詳細は私のホームページ、www.toyama-u.ac.jp/~nristo/を一度ご覧頂ください。

昭和四十二年卒業
総明会事業部長

結城康郎法律事務所
弁護士

結城康郎

〒一〇五-〇〇〇一
港区虎ノ門二-六-四
第十一森ビル九階
TEL 〇三-三三六-〇一五
FAX 〇三-三三六-〇一五

昭和四十四年卒

竹川忠芳法律事務所

弁護士

竹川 忠芳

〒一〇〇-〇〇〇一
千代田区霞ヶ関三-六-五
TEL 三三〇四-一三〇八
FAX 三三〇四-一三〇七

昭和四十四年卒（広報委員会）

佐久間法律事務所

弁護士

佐久間 洋一

〒一〇四-〇〇〇一
中央区銀座五-八-五
TEL 五五八八-六六四六
FAX 五五八八-六六四八

昭和四十四年卒

成富総合法律事務所

弁護士

田中 等

〒一〇〇-〇〇〇五
千代田区丸の内二-六-二
丸の内八重洲ビル四〇八区
TEL 三三一五-一五二五
FAX 三三一六-〇四〇四

祝 第35回総明会総会

波の会

2000年の総明会は、私達がホスト学年を努めさせて戴きます。よろしくお願い致します。
(S45年高I・S46年高II・S47年高IIIのいづれかに在学した人の会です。)

祝 第35回総明会総会 46年卒 明潮会



第34回総明会総会に際しましては、多数の方々に御参加頂き厚く御礼申し上げます。本部役員諸先輩の「明治」に対する、熱い思いを強く実感し、色々と御指導頂きました事を、深く感謝しております。

準備・企画を実行して行く中で、同期の「結束」が、より強くなった事が大きな収穫となりました。この高まりが後輩諸君にも受け継がれ、延いては、総明会全体の意識の高揚になります事を、祈念しております。



本年4月に開催された明潮会総会旅行。

卓球を通じて

明高中時代から

現在まで

昭和47年卒

前原 正浩



プロフィール

高校在学中に、全日本ジュニア大会へ東京都代表として出場。昭和四十七年には、明治大学へ進み関東学生新人戦で優勝。その後、大学四年生の時には、全日本学生選手権大会第二位、ダブルスでは二連覇を果たす。

昭和五十一年卒業後、協和発酵工業株式会社へ入社。全日本選手権大会では、81年に念願のシングルのタイトルを獲得する。

国際大会の主なものとして、79年オーストラリアオープン(シングル)、82年ソウルオープン(ダブルス)、86年インランドオープン(ダブルス)に優勝。

その後全日本の監督・コーチとしてソウル・アトランタオリンピックに参加。

現在は、日本卓球協会がスウェーデンから招いた、ソーレン・アレイン全日本男子監督(元スウェーデンチーム監督)のアシスタントコーチとして、ナショナルチームの選手強化にあたっている。

私の人生の基本は、明中、明高時代に巡り会えた先生、友人、特に自分が志していた卓球を通して知り会えた、先輩、同僚、後輩の方々の指導により、学びつくり上げられた『卓球を愛する心』をもって、今日まで至っております。

明中、明高での生活

昭和四十一年に明中に入学。小学校時代から続けていた卓球をあきらめきれず、親の反対を押し切り卓球部の門をたたき入部しました。

その当時の薄暗い体育館には、卓球台が四台。中学、高校の部員が奪いあうようにして使っていました。

また、体育館は剣道部、柔道部そして卓球部の三つのクラブがローテーションで使用する関係上、週六日間のうち二日間は打球練習ができず、火曜日と金曜日がトレーニングの日とされ、決して素晴らしい練習環境とは言えませんでした。

この週二日間の体力トレーニングが、その後、競技者としてやっていく上で大変役立っていました。

しかしながら、打球練習の量は学校だけの練習時間では、とても上達できるものではなく悩みの種でありましたが、同僚のみなさんには、明中、明高の六年間、大変な協力をしていただき、当時東京にあった卓球場へ幾度も通い、指導ならびに練習相手を引き受けてくれるなど、熱中してやっていた間に時間も忘れ、帰宅が深夜になってしまいう日もしばしばありました。

こうして卓球に没頭する生活をしていくうち、卓球にあまり理解をしめさなかった両親も、私の夢中さに呆れはじめてくれたのか？次第に陰ながら応援してくれるようになっていきました。

私が高校生になった頃、OBの方々の指導の成果があらわれ、中学生の選手のレベルは都内No.1になっていました。当然それなりの練習量を確保するため、学校での練習以外に都内の卓球場へ足を運ぶ日も多くなっていたわけですが、同時に選手の両親から「練習ばかりやっているの、学力が落ちてきた。学校以外の練習にうちの子を誘わないで欲しい。さもないければ、休部させたい。退部も考える。」

といった苦情の電話連絡が、私の家に連絡されるようになり、自分の両親からも「無理に中学生を練習に誘うな」と注意をされていきました。

中学、高校生にとって学業とスポーツの両立は、永遠のテーマでしょうが、その気になればうまくやりこなすことはできると思います。決心、実行が大切です。

現在、全日本チームのコーチをしておりませんが、強くなる選手の志の強さは並み大抵のものではありません。自分の夢として目標に向かって精進している選手の姿をみながら、一緒に合宿生活をして海外遠征でコーチングをしている自分を、ふっと「幸福な卓球人生」だと感じるときがあります。

二〇〇〇年シドニーオリンピックも間近にせまり、二〇〇一年には大阪で世界選手権大会が開催されます。

両大会で日本の選手が、メダルを獲得できるようサポートを続けていきたいと思っておりますので、今後とも、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、総明会の益々の発展を祈念しております。

情熱こそ原動力

昭和45年卒

桜井 久昭

高校時代は生物部の部長を務めるなど充実した学校生活を送る。また、サイクリングが好きで鎌倉や長瀬などの近場から伊豆一周や京都、能登半島など遠方へも自転車走らせた。

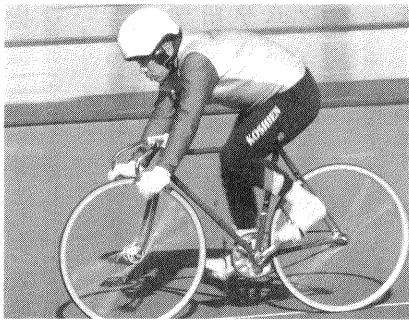
高校三年の夏、友人の従兄に競輪選手がいて話を聞いたのがきっかけで競輪の世界に入る事を決意。さっそくその倉地選手に弟子入りして特訓を受け、競輪学校二十八期の試験に合格。同期にはメキシコ五輪出場者、国体三連覇など輝かしい実績を持つ選手がいた。気持ちの上で負

けないように心がけ競輪学校時代は三十九勝をあげ、十位の成績で卒業。同期をライバルに情熱を燃やし続けた。昭和五十年小倉競輪祭で第十七代競輪王にまた記念競輪で十三回も優勝するなどS級として活躍する。

四十才のとき椎間板ヘルニアの手術をする。競輪選手としては致命的であったが努力を重ねて再起、平成十年四月四日通算四〇〇勝を達成、デビュー二十九年目を迎え、目標とした同期のライバルたちは引退したが力の限り走り続けることを誓ってくれた。また現在二人の弟子の指導にあたる、三十年前の自分と亡き師匠の姿に重ね合わせ厳しく妥協は許さない。「工夫と研究を常に忘れず、情熱を持って突き進む。それが向上する唯一の方策」と教える。

「実績も華々しい経歴もなく、とてつもない素質をもっているわけでもなかった。ただ自転車が好きで夢を追いつけてきた。競輪界で勝負できる根性、精神を植え付けてくれた明治での生活に感謝している。」

明治魂を忘れぬようデビュー以来、自転車のフレームの色は紫紺。結果で言葉で行動で今も熱いメッセージを送り続ける。



昭和四一年卒
酒・食品
有馬屋

有馬 博

東京都台東区千束一五三
TEL 〇三三三八七三二一八
FAX 〇三三三八七五五一八

昭和四〇年卒
(株)松 喜

諸橋 良昌

東京都台東区雷門二一七
TEL 三八四一一二九八三

昭和四一年卒
三好靴下(株)

三好 浩司

〒一七〇〇〇〇二
豊島区東豊島一三三
TEL 三九四一四七三
FAX 三九四一四七三

昭和三十七年卒
光陽繊維(株)

土生 崇智

〒一〇一〇〇三二
千代田区岩本町二一
TEL 〇三三三八六〇一五

昭和四一年卒
洋食・和食・中華材料卸
(株)藤川商店
代表取締役
藤川 靖夫

〒一〇四一〇〇三
東京都中央区八丁堀二一六
TEL 〇三三三五五一四四〇八

レストランウエディングは
YMCAレストラン オークルで

中 富 穎 隆
(S20年旧制中学卒)

〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町7
TEL 03-3292-7241 FAX 03-3295-4372

昭和三十七年卒
株式会社エムアンドケイ・ヨコヤ

横谷 昌明

〒一〇一〇〇五三
東京都台東区浅草橋一
FAX 〇三三三八六三三

昭和三十八年卒
(有)三浦屋
三浦 昭生

〒一〇一〇〇五三
東京都台東区浅草橋一
FAX 〇三三三八六三三

昭和三十七年卒
株式会社石井製作所
代表取締役
石井 嘉一郎

〒一〇一〇〇五三
東京都台東区浅草橋一
FAX 〇三三三八六三三

株式会社 サンリッツ

相談役 三上外喜男 S17卒
代表取締役社長 三上 嗣治 S44卒
開発部長 島野 竹夫 S46卒

〒175-0094 東京都板橋区成増1-30-13
電話03-3930-1101 FAX03-3930-1167

(有)サンブライト
TOMMY カジュアルパブ トミー

代表取締役 内田 光明

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-2
フルノートビル2F&3F
TEL (03)3291-5376~7

有限会社 おかもと
代表取締役 岡本 力三

東京都台東区浅草4丁目35番2号
電話 (3874) 2390・(3875) 7902



中田屋

創業江戸中期

新製品 なかあん入り草だんご
“お大師だんご” 新発売

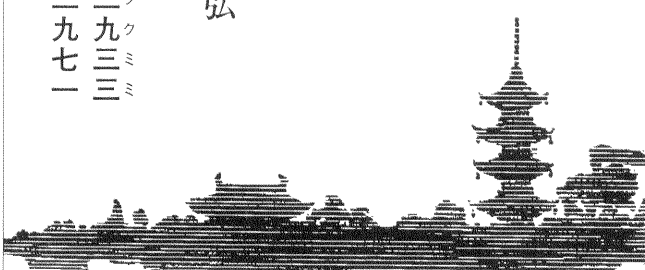
37年卒 中田 貢弘

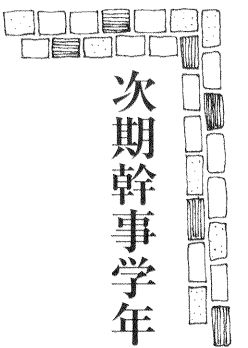
●大小御宴会・御法事

●お庭を眺めながらの御食事に
是非ご利用下さい

西新井大師参門前

TEL 三八九〇二九三三
FAX 三八九〇二九七一





次期幹事学年の抱負

本年も総明会が開催されますことについて心よりお祝い申し上げますと共に、幹事学年の諸先輩のご尽力に敬意を表すものであります。

さて、本会も三十数余年の歴史を持つわけですが、我々も四十代半ばとなり、会の歴史そのものが青春の思い出であり、社に出てからの今日までの激動の歴史であると考えております。

昭和四十八年卒業の同期会は、波の会と称して南千住の大沢君のお店にて会合を開いております。気軽に集まる「普通の人の集まり」並みの人の会がいつの日か波の会になりました。

波の会 富永 栄之進

尾崎君を会長として活動を行っております。

その中で総明会幹事の話が討議され多くの同期が集まりました。まず名簿の充実という作業から始めましたが、卒業してから二十数年という間に殆どの人の住所が変わってしまいました。この事にはとても驚きました。男子校なのに何故という想いでした。しかし、嬉しく思ったことが二つあります。一つ目は、何とか連絡がついて大沢君のお店に現れた同期の顔と仕種は学生服の昔のままである事でした。二つ目は話す内容には今の社会を背負っているのだという力

幹事学年より感謝をこめて

実行委員長 田中 徹太郎

『僕達は、それぞれの高きまで、息もつかず登っていく山人のようだね』ラジオから偶然流れてきたこの歌は自分達の世代を唱われている様に染みしました。

①四〇代からの新しい友人関係を。②お互いに人生の応援団になろう。四年前の幹事会発足の時に母体となる四七四七同志会の一テーマとしたものです。

『四七四七』で集まる時の顔は、商売のパーティの時と違うな。多くの同級生からあがった声でした。

③明治という学校に恩返しをしよう。こうした声も自然にあらはれました。

第三五回総明会は、皆様方の

強い自負が感じられることでした。懐かしいだけでは無く、より頑張ろうという前向きな力を与えてくれたものであると思いました。

我々波の会は、次年度総明会を実行するに当たり、単なる同窓会に終始することなく、今日の厳しい時代を乗り切るべく力を参加された方が実感して頂ければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

昭和四十八年卒
(株)溜屋 近藤葬祭
代表取締役
近藤 俊彦

足立区千住五十一一八〇
TEL 三三八一―二五六二
FAX 三三八一―三〇八九

役員名

田中徹太郎	廣野 宏士
内田 茂	戸張 毅
岩本 明男	飯島 信夫
植草 誠	遠藤 裕司
加藤 直樹	金子 正弘
倉本 鎮郎	小林 誠一
小宮 栄	齊藤 薫
佐野 孔志	皿井 啓之
嶋田 孝彦	須貝 強
鈴木 信夫	田中 孝幸
田中 昇	田中 実
月村 嘉男	長束 政憲
並木 清志	葉山 雄大
判澤 勉	古川 明男
松村 光庸	三浦 雅生
三澤 真蔵	南島 孝司
村瀬 和彦	村松 孝衛
森 優	安井 勝孝
山縣 清	米津 勝
若菜 利昭	渡辺 直哉

編集◆後◆記

人間の記憶は不思議なもので、いつまでも忘れられない事があり忘れていた事がふとしたことから蘇る事もある。どんな記憶でも時がたち、思い出となれば美しい記憶になってしま

四十七年卒の私たちにとって「修善寺事件」は誰もが口にす忘れられない事柄である。二十七年前の高校三年の夏、研修旅行の旅先で起きた騒動は五〇名を超える処分者を数えた。

この旅行では外出して、飲んで騒いでも何故か許されるという誤った情報に踊らされ、夜中に宿を抜け出したのだ。明高始まって以来の事件に発展し、学年全体の反省会を強いられた。

運良く熟睡していた者にとつては、まさに寝耳に水の事であり、当事者には後悔しかない。反省会とはほとんど意見も出ずに終わ

たように記憶している。私たちの学年はこの他にも事件を起こし謹慎、停学処分を受けよく怒られ「四十七卒は最低の学年だ」と罵られた。

学生運動が盛んな時代、大人や体制に反抗することが美徳であると錯覚し、若者の特権を行

使するかのようには振る舞った。四五歳の今、あの頃と同年齢の子を持つ親となり、世の中も目まぐるしいスピードで変貌した。社会の中で保身に身を焦がす現在に空しさやあてどなさを

感じるの時は流れに押し流されていった自分へのいらだちなのかもしれない。わたしたちは総明会の幹事学年として、新しい思い出づくりの旅を始めた。あの頃のように目を輝かせながら……

昭和一八年卒
学校法人 明治大学

常務理事
財務担当
別府 隆彦

千代田区神田駿河台一―

中華ファミリーレストラン



孫悟空 CHINESE CASUAL RESTAURANT

細田店 葛飾区細田1-15-6
Tel. (03) 3650-0059

行徳店 市川市入船1-27
Tel. (0473) 99-0059

新村秀男 (昭和42年卒)

愛犬のための健康管理 自然派 無着色

主食に
おやつに

Asahi
自然派 ビール酵母シリーズ 無着色

総合栄養食
エビオケツト

ビスケットフード主食用

毎日
健康維持

ラム&ライス
LAMB AND RICE

Asahiのビール酵母で
健康維持

MIRACLE PET NET 750g

Asahi
ビール酵母シリーズ

総合栄養食
エビオケツト

ビスケットフード主食用

37年卒 吉田 信行
38年卒 増田 利明

輸入発売元 販売元

Asahi
アサヒビール薬品株式会社
東京都墨田区吾妻橋一丁目23番1号

株式会社 ニチドウ
東京都墨田区西新小岩4丁目37番9号

明物会

名誉顧問

雨宮 芳久

金井 照治

相談役

尾崎 哲

北島 一弘

磯部 進

会長

寺澤 信一

副会長

尾崎 幸平

井家上哲史

西澤 渡

市東 康男

幹事長

尾崎 雄二

副幹事長

上野 雅宏

昭和51年卒

昭和47年卒

昭和48年卒

昭和51年卒

昭和52年卒

昭和47年卒

昭和48年卒

昭和51年卒

昭和52年卒

昭和47年卒

昭和48年卒

昭和51年卒

昭和52年卒

昭和47年卒

昭和48年卒

昭和51年卒

昭和52年卒

歴史研究部OB会

名誉顧問

保坂 吉彦 先生

栗野 哲也 先生

顧問

麻生 優 (25年卒)

大塚健太郎 (37年卒)

平沢 一義 (42年卒)

会長

山形 英明 (45年卒)

石川 俊彦 (54年卒)

副会長

鈴木勝一路 (38年卒)

結城 康郎 (42年卒)

事業部

池田 高征 (38年卒)

計

中山 隆司 (44年卒)

土田 正昭 (60年卒)

会員数

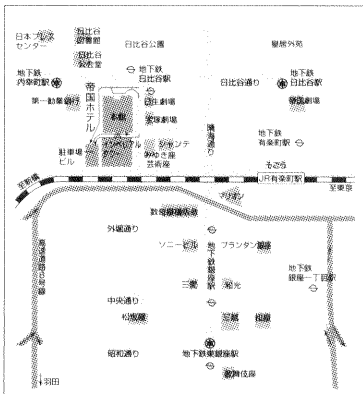
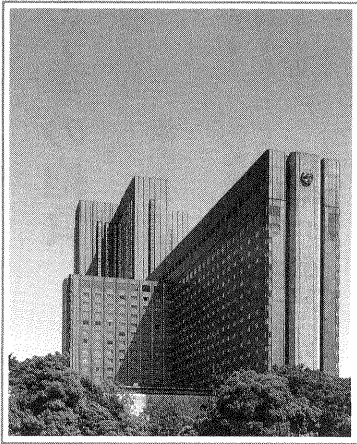
二八〇名

第35回総明会 プログラム

——あなたの根跡(ルーツ)を確かめて下さい——

～平成11年11月20日(土) 於：帝国ホテル～

東京都千代田区内幸町1-1-1 TEL (03) 3504-1111



講演会	16:00～
	2階 牡丹の間
総会	17:00～
	2階 牡丹の間
懇親会	18:00～
	中2階 光の間

講演会 15:30 受付開始
(牡丹の間) ●16:00 開演
2F ジャズボーカリスト
高橋三次郎氏 (S29年卒)
16:45 終了

総会 ●17:00 開場
(牡丹の間)
2F

懇親会 17:15 受付開始
(光の間) ●18:00 開宴
中2階 (マンドリンクラブOB演奏)
18:08 御来賓の御挨拶
18:30 歓談タイム
19:00 抽選会
19:30 リーダー公開
(多数賞品を準備しております)
19:50 次年度幹事学年紹介・挨拶
19:55 校歌斉唱
20:00 閉会

※ 尚、手荷物等は、1階宴会ロビー・クロークを御利用下さい。

—◇最寄の駅◇—

地下鉄 銀座駅 徒歩5分
日比谷駅 徒歩2分
内幸駅 徒歩2分
J R 有楽町駅 徒歩5分

—◇会費◇—

一般会員 10,000円
シニア会員 8,000円
(S32年卒より)
現役学生 7,000円
同伴者 5,000円

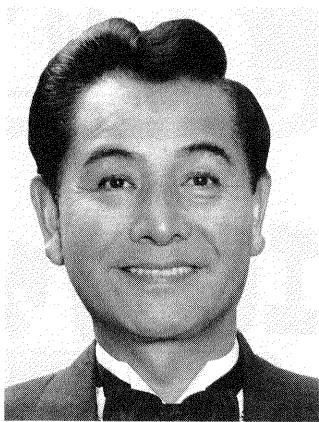
御出席の方のみ、お手数ですが確認の為同封の返信ハガキに記入の上、投函して下さい。
なお、返信ハガキで申し込まれなかった方も是非ご参加下さい。

総明会行事
企画委員会

第35回

総明会講演会

と き：平成11年11月20日(土) 16時開演
ところ：帝国ホテル 2F 牡丹の間
テーマ “童謡歌手からジャズ歌手へ”



たかはし しん
講師 高橋伸寿氏
(本名 三次郎)

——昭和29年卒業——

高橋伸寿氏は、今年1月「1998年日本ジャズボーカル大賞」受賞。
10才の時から童謡歌手として活躍し、明大在学中にジャズシンガーとしての道を歩きはじめる。また新東宝映画のスターとしても活躍。
新東宝映画“天城心中”の主役をつとめられるなど多才な活動をなさっている。

——略歴——

昭和10年 浅草に生まれる
23年 (旧制) 明治中学入学 (演劇部)
29年 (新制) 明治高校卒業 (音楽部)
33年 明大文学部英文科卒業

東宝ミュージカルのアーティストやシンガーとして出演。
ニューヨークでショービジネスを学ぶ。
オーシャンパール (英国船籍)、飛鳥などの豪華客船や都内ジャズクラブ、ディナーショーのエンターティナーとして活躍中。
またクルーナー流家元として後進の指導を続けていらっしゃいます。

○1995年 樋口修吉「花川戸へ」(中央公論社刊)にて半世紀が著述され発売中
○1998年 CD [映画主題歌に愛をこめて] 発売

祝 第35回総明会総会

明治大学付属明治高等学校応援団OB会
会長 小田川 玉城 (昭和25年卒)